

自己点検評価・資料集

資料1 環境科学院の専攻等と担当する教員数

平成25年5月1日現在

教授	准教授	講師	助教	助手	教員計	一般	合計
51 (4)	48 (2)	2 (0)	39 (3)	1 (0)	141 (9)	14	155 (9)

※ () 内は特任教員数で内数

専攻名	コース名	参画教員所属 部局名	教授		准教授		講師		助教		助手	
環境起学	人間・生態システム	地球環境科学研究院	4	(1)	5				1			
		低温科学研究所			1							
	環境適応科学	地球環境科学研究院	1		3	(1)			1			
	実践環境科学	地球環境科学研究院	1									
	国際環境保全	地球環境科学研究院	1									
		サステイナビリティ学教育研究センター	1									
小計			8	(1)	9	(1)	0	(0)	2	(0)	0	(0)
地球圏科学	大気海洋化学・ 環境変遷学	地球環境科学研究院	2		4				3	(1)		
		低温科学研究所	1		2				1			
	雪氷・寒冷圏科学	低温科学研究所	3				1		5			
	大気海洋物理学・ 気候力学	地球環境科学研究院	3		2				1			
		低温科学研究所	3		2		1		3			
小計			12	(0)	10	(0)	2	(0)	13	(1)	0	(0)
生物圏科学	生態系生物学	低温科学研究所	2		3				4			
	生態遺伝学	地球環境科学研究院	2		2						1	
	分子生物学	地球環境科学研究院	1		2	(1)			1			
		創成研究機構							1	(1)		
	植物生態学	地球環境科学研究院	1		1				1			
	動物生態学	地球環境科学研究院			1							
		創成研究機構							1	(1)		
	海洋圏科学	水産科学研究院	2	(1)	1				1			
	水圏生物学	北方生物圏フィールド科学センター	5		3				3			
	森林圏環境学	北方生物圏フィールド科学センター	5		6				5			
耕地圏科学	北方生物圏フィールド科学センター	3		1				2				
小計			21	(1)	20	(1)	0	(0)	19	(2)	1	(0)
環境物質科学	生体物質科学	地球環境科学研究院	2		2							
	ナノ環境材料	地球環境科学研究院	4	(1)	3				2			
	光電子科学	電子科学研究所	2	(1)	2				1			
	環境触媒化学	触媒化学研究センター	2		2				2			
	小計			10	(2)	9	(0)	0	(0)	5	(0)	0
合計			51	(4)	48	(2)	2	(0)	39	(3)	1	(0)

※ () 内は特任教員数で内数

資料1-2 地球環境科学研究所の分野等と担当する教員数

平成25年5月1日現在

教授	准教授	講師	助教	助手	教員計	一般	合計
22 (2)	26 (3)	0 (0)	11 (2)	1 (0)	60 (7)	14	74 (7)

※ () 内は特任教員数で内数

部門名	分野名	教授	准教授	講師	助教	助手
統合環境科学	自然環境保全	1	3			
	環境地理学	1			1	
	環境適応科学	2	3 (1)		1	
	実践・地球環境科学	2 (1)	1		2 (2)	
	小 計	6 (1)	7 (1)	0 (0)	4 (2)	0 (0)
地球圏科学	環境変動解析学	1	2		1	
	化学物質循環学	1	3 (1)		1	
	大気海洋物理学	1	1		1	
	気候力学	2	1			
	小 計	5 (0)	7 (1)	0 (0)	3 (0)	0 (0)
環境生物科学	陸域生態学	2	2		1	
	生態保全学	1	1			
	生態遺伝学	1	2			1
	環境分子生物学	1	2 (1)		1	
	小 計	5 (0)	7 (1)	0 (0)	2 (0)	1 (0)
物質機能科学	生体物質科学	2	2			
	機能材料化学	2	1		1	
	分子材料化学	2 (1)	2		1	
	小 計	6 (1)	5 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)
合 計		22 (2)	26 (3)	0 (0)	11 (2)	1 (0)

※ () 内は特任教員数で内数

資料2

環境科学院入学定員と現員数

(単位: 人)

H20. 5. 1現在		修士課程				博士後期課程				
専攻名	入学定員	在籍者数		小計	入学定員	在籍者数			小計	
		1年次	2年次			1年次	2年次	3年次		
環境起学	44	30 (1)	28 (3)	58 (4)	15	6 (3)	5 (2)	10 (4)	21 (9)	
地球圏科学	37	36 (1)	29 (1)	65 (2)	15	12 (2)	10 (2)	13 (0)	35 (4)	
生物圏科学	52	55 (1)	48 (1)	103 (2)	23	15 (0)	21 (2)	28 (4)	64 (6)	
環境物質科学	28	24 (2)	26 (2)	50 (4)	11	6 (1)	4 (2)	14 (7)	24 (10)	
計	161	145 (5)	131 (7)	276 (12)	64	39 (6)	40 (8)	65 (15)	144 (29)	

H21. 5. 1現在		修士課程				博士後期課程				
専攻名	入学定員	在籍者数		小計	入学定員	在籍者数			小計	
		1年次	2年次			1年次	2年次	3年次		
環境起学	44	41 (4)	31 (1)	72 (5)	15	8 (2)	4 (2)	13 (5)	25 (9)	
地球圏科学	37	27 (1)	39 (1)	66 (2)	15	9 (5)	12 (2)	20 (2)	41 (9)	
生物圏科学	52	41 (3)	59 (1)	100 (4)	23	16 (2)	15 (0)	35 (4)	66 (6)	
環境物質科学	28	27 (3)	26 (2)	53 (5)	11	7 (4)	6 (1)	8 (3)	21 (8)	
計	161	136 (11)	155 (5)	291 (16)	64	40 (13)	37 (5)	76 (14)	153 (32)	

H22. 5. 1現在		修士課程				博士後期課程				
専攻名	入学定員	在籍者数		小計	入学定員	在籍者数			小計	
		1年次	2年次			1年次	2年次	3年次		
環境起学	44	22 (2)	41 (3)	63 (5)	15	15 (5)	8 (2)	8 (2)	31 (9)	
地球圏科学	35	24 (2)	31 (1)	55 (3)	14	13 (6)	9 (5)	21 (2)	43 (13)	
生物圏科学	52	43 (1)	45 (3)	88 (4)	23	14 (5)	16 (2)	30 (2)	60 (9)	
環境物質科学	28	23 (3)	30 (3)	53 (6)	11	5 (2)	7 (4)	10 (2)	22 (8)	
計	159	112 (8)	147 (10)	259 (18)	63	47 (18)	40 (13)	69 (8)	156 (39)	

H23. 5. 1現在		修士課程				博士後期課程				
専攻名	入学定員	在籍者数		小計	入学定員	在籍者数			小計	
		1年次	2年次			1年次	2年次	3年次		
環境起学	44	34 (5)	32 (2)	66 (7)	15	14 (9)	13 (5)	12 (4)	39 (18)	
地球圏科学	35	35 (2)	27 (2)	62 (4)	14	11 (3)	13 (6)	21 (6)	45 (15)	
生物圏科学	52	53 (2)	46 (1)	99 (3)	23	18 (8)	14 (5)	32 (2)	64 (15)	
環境物質科学	28	32 (2)	23 (3)	55 (5)	11	11 (3)	5 (2)	12 (5)	28 (10)	
計	159	154 (11)	128 (8)	282 (19)	63	54 (23)	45 (18)	77 (17)	176 (58)	

H24. 5. 1現在		修士課程				博士後期課程				
専攻名	入学定員	在籍者数		小計	入学定員	在籍者数			小計	
		1年次	2年次			1年次	2年次	3年次		
環境起学	44	23 (6)	41 (6)	64 (12)	15	5 (2)	21 (13)	21 (6)	47 (21)	
地球圏科学	35	20 (1)	38 (2)	58 (3)	14	9 (3)	10 (3)	30 (10)	49 (16)	
生物圏科学	52	54 (0)	56 (3)	110 (3)	23	12 (1)	12 (4)	33 (9)	57 (14)	
環境物質科学	28	32 (0)	36 (2)	68 (2)	11	8 (5)	10 (2)	10 (5)	28 (12)	
計	159	129 (7)	171 (13)	300 (20)	63	34 (11)	53 (22)	94 (30)	181 (63)	

H25. 5. 1現在		修士課程				博士後期課程				
専攻名	入学定員	在籍者数		小計	入学定員	在籍者数			小計	
		1年次	2年次			1年次	2年次	3年次		
環境起学	44	25 (7)	30 (7)	55 (14)	15	12 (5)	12 (6)	24 (10)	48 (21)	
地球圏科学	35	27 (0)	23 (1)	50 (1)	14	5 (1)	8 (3)	27 (10)	40 (14)	
生物圏科学	52	43 (4)	59 (1)	102 (5)	23	20 (3)	12 (2)	29 (7)	61 (12)	
環境物質科学	28	39 (3)	36 (0)	75 (3)	11	8 (3)	8 (5)	16 (5)	32 (13)	
計	159	134 (14)	148 (9)	282 (23)	63	45 (12)	40 (16)	96 (32)	181 (60)	

※ () 内の数字は外国人留学生数(内数)

資料3 修士課程において修了に必要な単位数

専攻名	必修科目	選択必修	選択	合計
環境起学	12	0	18	30
地球圏科学	12	0	18	30
生物圏科学	12	0	18	30
環境物質科学	18	8	4	30
計	54	8	58	120

資料4 他研究科等の履修科目数

研究科等	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
総合化学院	0	0	0	1	1	4
文学研究科	1	2	1	0	0	0
経済学研究科	3	1	2	0	0	0
農学院	11	7	4	3	3	16
情報科学研究科	1	0	0	1	0	0
工学院	8	0	0	1	0	0
法学研究科	0	0	0	1	0	0
水産科学院	63	17	38	82	24	1
公共政策大学院	11	8	21	4	2	0
国際広報メディア・観光学院	12	3	0	1	0	2
理学院	2	6	0	1	0	2
小計	112	44	66	95	30	25
大学院共通科目	198	215	226	220	244	253
理工系専門基礎	0	0	19	25	18	35
合計	310	259	311	340	292	313

資料5 EPEES: English Program of Environmental Earth Science for a Sustainable Society
(持続的社會のための地球環境科学英語プログラム)

入学時期	修士課程	博士後期課程
平成26年10月	3	2

資料6 社会人(博士後期課程)入学状況

年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
入学者数	0	6	5	6	5	3

資料7 TAとRAの採用状況

年度	TA			RA
	区分	採用者数	授業科目数	
平成20年度	大学院	72	189	19
	全学教育科目	12	12	
	小計	84	201	
平成21年度	大学院	63	154	42
	全学教育科目	14	14	
	小計	77	168	
平成22年度	大学院	54	127	43
	全学教育科目	12	12	
	小計	66	139	
平成23年度	大学院	66	136	52
	全学教育科目	9	9	
	小計	75	145	
平成24年度	大学院	63	143	39
	全学教育科目	9	9	
	小計	72	152	
平成25年度	大学院	72	168	50
	全学教育科目	9	9	
	小計	81	177	

資料8 環境科学院全講義室の設備状況

講義室	収容 人員	マイク	ビデオ 装置	ビデオ 装置	DVD	OHP	スクリーン (電動)	暗幕等	液晶プロ ジェクター	備考
D201	252	○	○	○	○		○	○	○	
D101	90	○	○	○	○		○	○	○	ホリコム
D102	42						○	○	○	
D103	42						○	○	○	
C202	24					○	○(手動)	○	○	
C204-①	25						○	○	○	
C204-②	38						○	○	○	

資料9 博士後期課程学位授与状況

	入学者数	平成20年度までの修了者	
		修了年限内 修了者数	取得率
平成18年度 入学者	48	13	27%

	入学者数	平成21年度までの修了者	
		修了年限内 修了者数	取得率
平成19年度 入学者	39	17	44%

	入学者数	平成22年度までの修了者	
		修了年限内 修了者数	取得率
平成20年度 入学者	39	12	31%

	入学者数	平成23年度までの修了者	
		修了年限内 修了者数	取得率
平成21年4月 入学者	37	14	38%
平成21年10月 入学者	8	0	0%
合計	45	14	31%

	入学者数	平成24年度までの修了者	
		修了年限内 修了者数	取得率
平成22年4月 入学者	39	20	51%
平成22年10月 入学者	9	4	44%
合計	48	24	50%

	入学者数	平成25年度までの修了者	
		修了年限内 修了者数	取得率
平成23年4月 入学者	45	18	40%
平成23年10月 入学者	10	3	30%
合計	55	21	38%

資料10 環境科学院の中途退学者数一覧

年度	修士課程		博士後期課程		合計	
	人数	率(%)	人数	率(%)	人数	率(%)
平成20年度	4	1.4%	7	4.5%	11	2.5%
平成21年度	8	2.7%	9	5.6%	17	3.8%
平成22年度	9	3.5%	8	4.8%	17	4.0%
平成23年度	12	4.3%	8	4.5%	20	4.4%
平成24年度	13	4.3%	13	7.2%	26	5.4%
平成25年度	14	5.0%	19	10.5%	33	7.1%

資料11 学生の学会発表と学術論文発表状況(学位論文と修士論文を除く)

年度	専攻	論文数		学会発表数	
		査読あり	査読なし	英語	日本語
平成20年度	環境起学	7	0	21	29
	地球圏科学	28	14	41	78
	生物圏科学	30	8	54	119
	環境物質科学	4	0	37	75
	計	69	22	153	301
平成21年度	環境起学	13	4	21	31
	地球圏科学	34	7	35	70
	生物圏科学	47	8	45	73
	環境物質科学	18	0	41	79
	計	112	19	142	253
平成22年度	環境起学	17	0	14	36
	地球圏科学	54	10	14	16
	生物圏科学	40	1	26	52
	環境物質科学	10	0	35	93
	計	121	11	89	197
平成23年度	環境起学	31	2	27	29
	地球圏科学	25	2	42	68
	生物圏科学	42	0	83	108
	環境物質科学	27	0	34	100
	計	125	4	186	305
平成24年度	環境起学	34	3	30	44
	地球圏科学	30	9	62	61
	生物圏科学	50	9	66	135
	環境物質科学	22	0	42	101
	計	136	21	200	341
平成25年度	環境起学	44	0	53	2
	地球圏科学	37	7	46	82
	生物圏科学	61	3	63	135
	環境物質科学	18	0	52	111
	計	160	10	214	330

資料12 平成25年度修了者就職等状況一覧

平成26年5月1日現在

項目	課程		大学院												備考
	学部		修士課程				専門職学位課程				博士課程				
	人数(名)	(内数)留学生	人数(名)	(内数)留学生	人数(名)	(内数)留学生	人数(名)	(内数)留学生	人数(名)	(内数)留学生	人数(名)	(内数)留学生			
(A) 卒業・修了者数	(0)	(0)	(36)	(7)	(0)	(0)	(3)	(15)	(2)	(10)					
(B) 就職希望者数	(0)	(0)	(25)	(4)	(0)	(0)	(7)	(7)	(7)	(5)					
(C) 就職者数	[0]	[0]	[2]	[23]	[0]	[4]	[0]	[0]	[0]	[0]	[1]	(5)	[0]	(3)	
うち	[0]	[0]	[3]	[86]	[0]	[5]	[0]	[0]	[0]	[4]	(20)	[0]	(6)		
道外就職者	(0)	(0)	(16)	(4)	(0)	(0)	(4)	(4)	(4)	(3)					
うち	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(3)			(2)		
有職者	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(6)			(3)		
(D) 就職率(%)	-	-	(92.0)	(100.0)	-	-	(71.4)	(60.0)							
(E) 進学者数	[0]	[0]	[9]	[9]	[3]	[3]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	
うち	[0]	[0]	[20]	[21]	[3]	[3]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	
大学院	[0]	[0]	[9]	[9]	[3]	[3]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	
うち	[0]	[0]	[20]	[21]	[3]	[3]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	
大学	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	
うち	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	
就職している者	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	
(F) その他	(0)	(0)	(4)	(0)	(0)	(0)	(10)	(7)							
合計	0	0	13	1	0	0	29	15							

・A=C+E+F
 ・D=C÷B×100
 ・上段()は女子で内数/就職率()は女子の就職率
 ・博士の修了者数[]は、単位修得退学者で内数。(※単位修得退学者も便宜上「修了者」として含める。)
 ・就職者数[]は、正規の職員等でないもので内数。
 ・進学希望者数[]は、本学進学希望者で内数。
 ・進学希望者数「うち就職している者[]」は、正規の職員等でないもので内数。

(C)就職先の内訳

項目	課程		大学院												備考	
	学部		修士課程				専門職学位課程				博士課程					
	人数(名)	うち女子	(内数)留学生	うち女子	人数(名)	うち女子	(内数)留学生	うち女子	人数(名)	うち女子	(内数)留学生	うち女子	人数(名)	うち女子		(内数)留学生
大学教員	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
研究機関	0	(0)	0	(0)	1	(1)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	11	(3)	5	(3)
教員	0	(0)	0	(0)	2	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	2	(1)	0	(0)
その他の教員	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
①ポスト・研究員	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
うち学振特別研究員	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
官公庁 国家公務員	0	(0)	0	(0)	3	(2)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
地方公務員	0	(0)	0	(0)	7	(1)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	3	(0)	0	(0)
民間企業	0	(0)	0	(0)	73	(19)	5	(4)	0	(0)	0	(0)	4	(1)	1	(0)
病院・診療所	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
その他	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
合計	0	(0)	0	(0)	86	(23)	5	(4)	0	(0)	0	(0)	20	(5)	6	(3)

(F)その他の内訳

項目	課程		大学院												備考	
	学部		修士課程				専門職学位課程				博士課程					
	人数(名)	うち女子	(内数)留学生	うち女子	人数(名)	うち女子	(内数)留学生	うち女子	人数(名)	うち女子	(内数)留学生	うち女子	人数(名)	うち女子		(内数)留学生
大学院、大学の研究生・聴講生等	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
外国の学校等へ入学(留学)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
専修学校・各種学校へ入学	0	(0)	0	(0)	1	(1)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
資格試験受験準備()	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
大学院進学受験準備	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
大学進学受験準備	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
臨床研修医	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
ポスト・研究員	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	11	(2)	3	(0)
うち学振特別研究員	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
②一時的な職に就いた者	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	9	(2)	3	(0)
③その他	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	2	(0)	0	(0)
アルバイト、パート等(一時的な仕事に就いたもの)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
家事手伝い	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
主婦・主夫	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
起業予定	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
帰国(留学生)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	4	(2)	4	(2)
未就職者	0	(0)	0	(0)	8	(2)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	6	(2)	5	(2)
①民間志望	0	(0)	0	(0)	5	(2)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	6	(2)	5	(2)
②教員志望	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
③公務員志望	0	(0)	0	(0)	3	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
④その他	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
青年海外協力隊	0	(0)	0	(0)	1	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
進路未定	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
不明	0	(0)	0	(0)	3	(1)	1	(0)	0	(0)	0	(0)	8	(4)	3	(3)
合計	0	(0)	0	(0)	13	(4)	1	(0)	0	(0)	0	(0)	29	(10)	15	(7)

就職等状況(F)その他(F)その他の内訳合計 0 (0) 0 (0) 0 (0) 0 (0) 0 (0) 0 (0) 0 (0) 0 (0) 0 (0) 0 (0) 0 (0) 0 (0) 0 (0) 0 (0)

就職等状況(C)就職者数(C)就職先の内訳合計 0 (0) 0 (0) 0 (0) 0 (0) 0 (0) 0 (0) 0 (0) 0 (0) 0 (0) 0 (0) 0 (0) 0 (0) 0 (0) 0 (0) 0 (0)

資料16 平成25年度進学先一覧(修士課程修了者)

順位	大学院名	人数(名)
1	北海道大学大学院環境科学院	20
2	岡山大学環境生命科学研究科	1
	合計	21

資料17 平成25年度 博士後期課程3年次学生の修了状況

	全体	留学生	日本人学生	社会人学生
学位取得修了	37	18	17	2
単位修得退学	12	3	8	1
留年	42	11	23	8

資料18 平成25年度 博士後期課程3年次学生における日本人学生の入学年度

	全体	平成23年度	平成22年度	平成21年度
学位取得修了者	17	7	5	5
単位修得退学者	8	3	1	4
留年者	23	13	4	6

資料19 平成25年度博士後期課程就職等状況一覧

	H25		H24		H23		H22	
	人数	(内数) 留學生 女子	人数	(内数) 留學生 女子	人数	(内数) 留學生 女子	人数	(内数) 留學生 女子
修了年度	49		38		36		28	
修了者数	49		38		36		28	
就職者	人数	(内数) 留學生 女子	人数	(内数) 留學生 女子	人数	(内数) 留學生 女子	人数	(内数) 留學生 女子
大学教員			2	(1)	3	(1)	1	1
研究機関	11	(3)	12	(4)	4	(1)	2	
教員	2	(1)	1	(1)				
その他の教員								
ポスドク・研究員			7	(1)	7	(2)	1	
官公庁(国家公務員)							1	
官公庁(地方公務員)	3				1			
民間企業	4	(1)	2		3	(2)	5	
病院・診療所								
その他								
その他	人数	(内数) 留學生 女子	人数	(内数) 留學生 女子	人数	(内数) 留學生 女子	人数	(内数) 留學生 女子
ポスドク・研究員	11	(2)	2	(2)	10	(4)	13	(8)
未就職者(就職活動中)	6	(2)	5	(2)	2			
その他(不明・未定等)	12	(6)	7	(5)	6		6	(3)
合計	49	(15)	38	(11)	36	(10)	28	(11)
		21		(10)		(4)		(1)
				13				4
								(3)

※修了者には年度内単位修得退学者を含む

※就職者の「ポスドク・研究員」は雇用契約が1年以上の者, その他の「ポスドク・研究員」は雇用契約が1年未満の者

資料20 論文発表数

年度(平成)	部門	査読あり(JCR登録あり、Eigenfactorベース/IF*CHLベース)			査読あり(その他)	査読なし・解説・その他	合計	査読付き論文率(%)
		上位5%雑誌	上位5-20%雑誌	その他				
20	統合環境科学	9/5	11/9	16/22	7	10	53	81.1
	地球圏科学	16/11	12/11	6/12	14	24	72	66.7
	環境生物科学	3/3	13/8	16/21	10	15	57	73.7
	物質機能科学	2/0	8/10	6/6	0	2	18	88.9
	合計	30/19	43/37	44/61	31	51	199	74.4
21	統合環境科学	6/3	11/11	8/11	7	6	35	82.9
	地球圏科学	11/9	20/21	15/16	17	11	74	85.1
	環境生物科学	2/0	10/10	17/19	7	5	41	87.8
	物質機能科学	5/0	2/4	5/8	1	0	13	100.0
	合計	23/12	39/41	45/54	30	22	159	86.2
22	統合環境科学	8/8	9/8	11/12	7	9	44	79.5
	地球圏科学	9/7	11/5	8/16	11	16	55	70.9
	環境生物科学	4/2	7/8/	19/20	11	3	44	93.2
	物質機能科学	1/1	4/4	2/2	1	0	8	100.0
	合計	22/18	30/23	38/49	30	28	148	81.1
23	統合環境科学	10/5	3/6	15/17	20	18	66	72.7
	地球圏科学	8/5	3/8	7/5	1	6	25	76.0
	環境生物科学	3/0	5/6	7/9	7	1	23	95.7
	物質機能科学	7/2	2/4	4/7	3	0	16	100.0
	合計	26/10	13/24	33/38	30	25	127	80.3
24	統合環境科学	9/3	8/16	16/14	17	17	67	74.6
	地球圏科学	17/13	11/11	8/12	2	10	48	79.2
	環境生物科学	3/4	5/5	19/18	5	21	53	60.4
	物質機能科学	3/0	4/4	1/4	1	0	9	100.0
	合計	31/20	27/34	44/48	25	48	175	72.6
25	統合環境科学	9/2	15/12	21/31	23	4	72	94.4
	地球圏科学	15/8	13/7	12/25	6	5	51	90.2
	環境生物科学	7/2	10/8	19/26	10	5	51	90.2
	物質機能科学	6/1	4/7	0/2	1	0	11	100.0
	合計	37/13	40/33	52/83	39	14	182	92.3

部門間での業績の重複があるため、年度の合計値は単純な総和にはならない。

JCR: Journal Citation Reports®

IF*CHL: Impact FactorとCited Half-Lifeの積

資料21 招待講演/基調講演件数

部門名	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	招待	基調										
統合環境科学	2		3	1	4		1	1	8	1	5	
地球圏科学	18	2	12	1	7	2	9		1		3	
環境生物科学	12		11		8		9		14		6	
物質機能科学	6		5		2		1		4		11	
合計	38	2	31	2	21	2	20	1	27	1	25	0

資料22 主な受賞の状況

年度	賞名
平成20年度	平成19年度石油学会奨励賞 Ecological Research論文賞
平成21年度	日本生態学会大島賞 日本地球化学会賞 北海道分析化学功労賞
平成22年度	第34回粉体粉末冶金協会協会賞（研究進歩賞） 第8回農芸化学研究企画賞 iGEM2010：銀メダル 気象集論文賞（JMSJ Award）（2件） 日本第四紀学会論文賞
平成23年度	-
平成24年度	分析化学会2012年度学会功労賞 海のフロンティアを拓く岡村健二賞 Bulletin of Chemical Society of Japan, Selected Paper 気象集論文賞（JMSJ Award）
平成25年度	日本生態学会賞 日本地球化学会奨励賞 守田科学研究奨励賞 望月喜多司記念賞 平成25年度北海道大学教育総長賞 寒冷地技術シンポジウム2013年度寒冷地技術賞（地域振興部門）

資料23 外部資金の獲得状況

区分	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	件数	金額										
科学的研究費補助金	67	222,327,000	69	223,935,320	92	259,613,100	99	262,778,707	96	264,261,200	69	187,110,400
(上記分担者配分額)		(19,456,000)		(43,169,680)		(33,076,400)		(44,582,100)		(28,878,000)		(12,658,000)
共同研究	12	20,648,900	11	13,247,780	12	12,438,933	7	7,381,900	6	7,895,000	9	18,601,670
受託研究	21	130,411,083	18	147,324,282	16	158,770,369	25	222,433,485	17	200,978,340	16	170,418,389
寄附金	17	19,350,000	17	20,134,000	13	14,471,000	10	12,450,500	14	8,521,000	16	15,626,959
その他補助金	1	307,970,000	4	322,639,800	3	231,919,000	4	242,036,000	6	250,940,640	1	324,000
合計	118	700,706,983	119	727,281,182	136	677,212,402	145	747,080,592	139	732,596,180	111	392,081,418

※金額には、間接経費（一般管理費）を含む。

科学的研究費補助金は、他機関分担者への配分額を除いた金額を計上（下段（）が分担者への配分額）。

その他補助金には、研究拠点形成費等補助金他（文科省）、研究者海外派遣基金助成金他（日本学術振興会）を計上。

資料24 共同研究の状況（他大学、研究機関、企業等）

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
国内	25	23	25	32	34	38
国外	4	5	6	14	15	23

資料25 兼業状況

兼業分野	兼業細目	全体	統合環境科学部門					地球圏科学部門					環境生物科学部門					物質機能科学部門												
			計	25	24	23	22	21	20	計	25	24	23	22	21	20	計	25	24	23	22	21	20							
A	非常勤講師	114	47	7	7	8	8	7	10	22	4	3	3	3	6	3	37	7	10	7	8	4	1	8	2	2	3	1		
	大学等 高校・専門学校その他	42	13	5	1	6			1	3	1	2					8	3	1	2				2	18	3	6	7	1	1
B	各種講師・講演等	77	34	5	5	5	7	5	7	8	1	4	1	2	25	6	6	4	4	3	6	2	10	2	2	1	2	2	3	
	専門講演、パネラー、専門講習等 その他講演等	118	54	3	3	8	12	12	16	5				1	4	30	1	6	7	5	7	4	29	2	2	1	2	6	7	11
C	日本学術振興会審査委員等	87	27	3	5		6	7	6	18	6	3	7	1	1	1	37	5	5	2	10	7	8	5	2			2	1	
D	日本学術会議会員・連携会員等	22	12			4	1	1	6	9		1	4	1	3	1								1	0					
E	国関係機関委員等	68	24	6	3	8	1	2	4	21	5	3	4	3	4	2	22	7	5	2	2	1	5	1					1	
	行政関係機関委員等	84	49	5	7	6	10	8	13	4			2	2		25	4	6	5	3	5	2	6	1	1	1	1	1	1	
F	他大学関係	6	1				1			0						5	1				4			0						
	他大学客員・委員等	36	10		2	2	1	2	3	7		1	2	1	3	12	1	5	2	2	2	2	7	5				1	1	
G	公的研究機関委員等	122	44	7	6	9	7	8	7	52	4	3	7	12	9	17	20	3	2	3	2	4	6	6	2	1	1	1	1	
	国研・独法研究機関客員・委員等 公施設・地独研究機関客員・委員	27	11	5	6					8	2	1		2	3	7	2	3				1	1	1	1					
H	各種団体役員等	32	8		1	2	1	3	1	5		2	2	1		8	2		1	2	1	2	11	1	1	1	1	4	2	
	各種団体委員等	114	31	6	2	5	4	5	9	38	6	6	1	8	5	12	27	5	4	2	6	3	7	18	2	1	3	3	5	4
I	民間企業・団体委員等	37	10	1		2	3	3	1	0						14	1	2	2	3	4	2	13	2	4	2	4	1		
	NPO・市民団体関係役員・委員	4	3	1	1				1	0						1							1	0						

協定先	協定先区分	連携目的	連携内容	締結年月日
中間支援会議・北海道 (1.財団法人北海道環境財団) 2.特定非営利活動法人北海道市民環境ネットワーク 3.札幌市環境プラザ 4.環境省北海道環境パートナーシップオフィス)	財団法人等	北海道の環境保全をはじめとした地域社会の発展に資することを目的として、教育・研究交流、人的交流・情報交流などのうち相互に協力が可能な分野において互恵の精神に基づき協力を推進する。	連携プログラムに基づき以下の活動等を連携して実施 1.環境白書プロジェクト 2.環境プロジェクトコーディネーターコース実習に関する活動	平成23年 12月15日
○株式会社星野リゾート・トマム ○占冠村	○民間会社 ○市町村	産学間の連携を通して占冠村を中心とした環境保全、観光振興、地域社会の発展に資することを目的として教育・研究交流、人的交流情報交流などのうち相互に協力が可能な分野において互恵の精神に基づき協力を推進する。	連携プログラムに基づき以下の活動等を連携して実施 1.占冠小中学生への環境教育 2.雲海テラスを中心とした研究教育活動 3.占冠村主催セミナー	平成24年 9月21日 ((株)星野リゾートトマムとは平成23年4月13日に連携協定を締結し、平成24年9月21日に新たに三者により協定を締結した。)
株式会社北海道コカ・コーラボトリング	民間会社	北海道における環境保全、地域社会の発展に資することを目的として、教育・研究交流、人的交流、情報交流など相互に協力が可能な分野において、互恵の精神に基づき協力を推進する。	連携プログラムに基づき以下の活動等を連携して実施 1.環境教育「山のがっこう」の企画・運営 2.環境プロジェクトコーディネーターコース実習に関する活動	平成25年 7月29日

資料27 協定一覧

【部局間交流協定】

地球環境科学研究院および環境科学院として締結したもの

	国名	機関名	締結年月日
1	アメリカ合衆国	イリノイ大学大学院シカゴ校 UIC Graduate College, The University of Illinois at Chicago	平成5年7月14日 (1993年)
2	インドネシア共和国	パラカラヤ大学 University of Palangka Raya	平成7年3月16日 (1995年)
3	連合王国 (UK)	ノッチンガム大学 University of Nottingham	平成8年2月9日 (1996年)
4	ネパール連邦民主共和国	トリブバン大学科学技術研究科 Tribhuvan University	平成9年10月17日 (1997年)
5	中華人民共和国	蘭州大学資源環境学院 School of Earth and Environmental Sciences, Lanzhou University	平成9年11月17日 (1997年)
6	マレーシア連邦	マレーシアサバ大学科学技術研究科 School of Science and Technology, Universiti Malaysia Sabah	平成10年1月16日 (1998年)
7	ドイツ連邦民主共和国	GEOMAR Helmholtz Centre for Ocean Research Kiel	平成24年5月31日 (2012年)
8	中華民国 (台湾)	国立東華大学 College of Environmental Studies, National Dong Hwa University	平成24年6月25日 (2012年)
9	アメリカ合衆国	ユタ大学大学院・ナノ研究所 Graduate School/ Nano Institute of Utah, University of Utah	平成25年1月22日 (2013年)
10	マレーシア連邦	マレーシアサバ大学熱帯生物保全研究所 Institute for Tropical Biology and Conservation, Universiti Malaysia Sabah	平成26年2月5日 (2014年)
11	マレーシア連邦	マレーシア大学テレンガヌ校海洋科学・環境科学部 School of Marine Science and Environment, Universiti Malaysia Terengganu	平成26年9月19日 (2014年)

地球環境科学研究院として締結したもの

	国名	機関名	締結年月日
1	中華人民共和国	廈門大学海洋環境科学院 The College of Oceanography and Environmental Science, Xiamen University	平成20年7月31日 (2008年)
2	パキスタン・イスラム共和国	カラチ大学 Faculty of Science, University of Karachi	平成20年9月29日 (2008年)
3	ロシア連邦	ロシア科学アカデミー極東支部・ロシア極東地質学研究所 Far Eastern Geological Institute, Far Eastern Branch of Russian Academy of Sciences	平成20年11月27日 (2008年)
4	ロシア連邦	ロシア科学アカデミーシベリア支部・寒冷圏生物学研究所 Institute for Biological Problems of Cryolithozone, Siberian Branch of Russian Academy of Sciences	平成20年12月2日 (2008年)
5	ロシア連邦 サハ共和国	ヤクーツク国立大学 (現 北東連邦大学) Yakutsk State University	平成20年12月3日 (2008年)
6	インドネシア共和国	イスラム大学 Faculty of Civil Engineering and Planning, Islamic University of Indonesia	平成20年12月11日 (2008年)
7	モンゴル国	モンゴル科学アカデミー地理学研究所 Institute of Geography of Mongolian Academy of Sciences	平成21年2月18日 (2009年) 更新：平成26年5月15日 (2014年)

	国名	機関名	締結年月日
8	モンゴル国	モンゴル国立大学生態学研究科 Faculty of Biology, National University of Mongolia	平成21年2月18日 (2009年)
		モンゴル国立大学人文科学院、および応用科学工学院 School of Art and Sciences, and School of Applied Sciences and Engineering, National University of Mongolia	更新：平成26年5月15日 (2014年)
9	モンゴル国	モンゴル国家気象水文環境監査省水文気象研究所 Institute of Meteorology and Hydrology of National Agency for Meteorological, Hydrological and Environmental Monitoring	平成21年2月19日 (2009年)
		モンゴル国家自然環境省 水文気象研究所 Institute of Meteorology and Hydrology, Ministry of Nature and Environment, Mongolia	更新：平成26年5月16日 (2014年)
10	ロシア連邦	ロシア科学アカデミーシベリア支部・メリニコフ永久凍土研究所 Melnikov Permafrost Institute, Siberian Branch of Russian Academy of Sciences	平成22年2月1日 (2010年)
			更新：平成26年2月25日 (2014年)
11	ロシア連邦	ロシア科学アカデミーシベリア支部・北方先住民族研究所 Institute of The Indigenous Peoples of The North, Siberian Branch of Russian Academy of Sciences	平成22年2月1日 (2010年)
		ロシア科学アカデミーシベリア支部・北方先住民族研究所 Institute for Humanitarian Research and Indigenous Peoples Problems of the Siberian Branch of Russian Academy of Sciences	更新：平成26年2月25日 (2014年)
12	ロシア連邦	ロシア科学アカデミー・チュメニサイエンスセンター 及び ロシアチュメニ石油ガス大学 Tyumen Science Center, Siberian Branch of Russian Academy of Science & Research Institute of Cryogenic Resources Tyumen State Oil and Gas University	平成22年11月22日 (2010年)
13	オランダ王国	自由大学 地球生命科学科 Faculty of Earth and Life Sciences, Vrije Universiteit	平成22年12月13日 (2010年)
14	バングラデシュ人民共和国	ジャハングルナガル大学 Faculty of Mathematical and Physical Sciences of Jahangirnagar University of Bangladesh	平成24年1月26日 (2012年)

環境科学院として締結したもの

	国名	機関名	締結年月日
1	中華民国 (台湾)	国立成功大学 National Cheng Kung University	平成22年9月2日 (2010年)

【大学間交流協定】

地球環境科学研究所および環境科学院として参画したもの

※:責任部局

	国名	機関名	締結年月日	備考
1	中華人民共和国	南開大学 Nankai University	平成18年5月11日 (2006年)	大学間
2	インドネシア共和国	パランカラヤ大学 University of Palangka Raya	平成18年8月26日 (2006年)	大学間※
3	スイス連邦	スイス連邦工科大学 Swiss Federal Institute of Technology Zurich (ETH)	平成19年6月13日 (2007年)	大学間※
4	ネパール連邦民主共和国	トリブバン大学 Tribhuvan University	平成22年10月24日 (2010年)	大学間※
5	中華人民共和国	東南大学 Southeast University	平成22年10月29日 (2010年)	大学間※
6	中華人民共和国	西北農林科技大学 Northwest A&F University	平成23年10月13日 (2011年)	大学間
7	大韓民国	成均館大学校 Sungkyunkwan University	平成24年12月27日 (2012年)	大学間
8	フィリピン共和国	フィリピン大学 The University of The Philippines	平成26年7月16日 (2014年)	大学間

地球環境科学研究所として参画したもの

	国名	機関名	締結年月日	備考
1	大韓民国	ソウル大学校 Seoul National University	平成9年10月1日 (1997年)	大学間
2	大韓民国	釜慶大学校 Pukyong National University	平成12年10月25日 (2000年)	大学間
3	ロシア連邦	極東連邦総合大学 Far Eastern Federal University	平成19年11月12日 (2007年)	大学間
4	オーストラリア連邦	タスマニア大学 University of Tasmania	平成21年1月9日 (2009年)	大学間
5	インドネシア共和国	ボゴール農科大学 Bogor Agricultural University	平成21年7月29日 (2009年)	大学間
6	中華人民共和国	蘭州大学 Lanzhou University	平成22年4月9日 (2010年)	大学間
7	中華人民共和国	廈門大学 Xiamen University	平成22年11月25日 (2010年)	大学間
8	台湾	国立台湾海洋大学 National Taiwan Ocean University	平成26年4月23日 (2014年)	大学間

環境科学院として参画したもの

	国名	機関名	締結年月日	備考
1	フィンランド共和国	オウル大学 University of Oulu	平成13年12月11日 (2001年)	大学間
2	アメリカ合衆国	ハワイ大学マノア校 University of Hawaii at Manoa	平成15年6月30日 (2003年)	大学間
3	ロシア連邦	ロシア科学アカデミー極東支部 Far Eastern Branch of Russian Academy of Sciences	平成21年7月23日 (2009年)	大学間
4	ドイツ連邦民主共和国	ブレーメン大学 Universität Bremen	平成22年2月11日 (2010年)	大学間
5	中華人民共和国	中国海洋大学 Ocean University of China	平成23年2月3日 (2011年)	大学間
6	台湾	国立中興大学 National Chung Hsing University	平成24年3月14日 (2012年)	大学間
7	ロシア連邦	北東連邦大学 (旧ヤクーツク国立大学) North-Eastern Federal University	平成24年4月2日 (2012年)	大学間
8	台湾	国立成功大学 National Cheng Kung University	平成25年1月25日 (2013年)	大学間
9	インドネシア共和国	バンドン工科大学 Institut Teknologi Bandung	平成26年3月20日 (2014年)	大学間
10	ロシア連邦	極東連邦大学 Far Eastern Federal University	平成26年9月25日 (2014年)	大学間

資料28 教員等の国外派遣および外国人研究者の受け入れ状況(平成25年度)

地域(国)	派遣			受け入れ			
	派遣計	短期	中期	受入れ計	短期	中期	長期
	112	102	10	5	3	2	
東アジア	19	17	2	1		1	
韓国	3	3					
台湾	1	1					
中国	15	13	2	1		1	
モンゴル							
東南アジア	16	16		1	1		
タイ	2	2					
マレーシア	3	3					
シンガポール							
インドネシア	4	4					
フィリピン	1	1					
ベトナム	1	1		1	1		
ミャンマー	4	4					
ラオス	1	1					
南アジア	1	1		1			1
インド				1			1
ネパール	1	1					
ブータン							
バングラデシュ							
西アジア	1	1					
ヨルダン							
サウジアラビア	1	1					
アフリカ	2	2					
ジンバブエ							
南アフリカ	2	2					
オセアニア	5	5					
オーストラリア	1	1					
ニュージーランド	4	4					
北米	27	26	1				
アメリカ合衆国	26	25	1				
カナダ	1	1					
中南米	2	2					
キューバ							
アルゼンチン	1	1					
ペルー	1	1					
西ヨーロッパ	24	22	2	2	2		
フィンランド	3	3		1	1		
スウェーデン							
ノルウェー	1	1					
ベルギー	1	1					
ルクセンブルグ							
オランダ							
イギリス	3	2	1	1	1		
ドイツ	6	6					
オーストリア	1	1					
スイス	3	3					
フランス							
スペイン	3	3					
イタリア	1		1				
デンマーク	1	1					
トルコ	1	1					
東ヨーロッパ	11	10	1				
ポーランド	1	1					
チェコ							
キルギス共和国	3	2	1				
ロシア連邦	7	7					
公海(オセアニア)	3						
その他(ヨーロッパ地域)	1		1				

注1: 短期:30日以内, 中期:31日以上1年以内, 長期:1年以上。上記人数には研究員を含む。

注2: 研究者受入れについては, 各教員の自己申告に基づく統計となっている。

資料 29

北海道大学大学院環境科学院における他大学の大学院等の 単位の認定方法に関する申し合わせ

平成24年3月8日

教授会決定

(趣旨)

第1条 北海道大学大学院環境科学院規程（以下「規程」という。）第9条により修得した単位又は学修の成果における単位の認定については、この申し合わせに定めるところによる。

(授業科目等)

第2条 本学院が履修を許可し、他の大学の大学院（以下「他大学院」という。）において修得した授業科目については、原則として、修得した大学院における授業科目名により審査し、認定する。ただし、本学院による審査で既に本学院において設置している授業科目と同様の授業科目と判定された場合には、修得した大学院における授業科目名ではなく、本学院において設置している授業科目名で認定することがある。

(単位数)

第3条 本学院が履修を許可し、他大学院において修得した単位については、原則として、修得した大学院における単位数により審査し、認定する。

2 本学院が履修を許可し、外国の大学院において修得した単位については、UMAP単位互換方式（UCTS）（以下、「UCTS」という。）を用いて換算した単位数により審査し、認定する。当該単位換算においては、日本国内の大学の学部4年での必要単位数124単位(年間31単位)を基準にし、日本の1単位を $60/31=1.94$ UCTS単位とする。ただし、本学又は本学院との間の交流協定等で単位数換算に関する取り決めがなされている他大学院において修得した単位については、原則として、当該交流協定等が定める方法に基づき単位数を換算する。

(他大学院において修得した単位の評価)

第4条 本学院が履修を許可し、国内の他大学院において修得した単位については、規程第13条により評価を行う。

2 本学院が履修を許可し、外国の他大学院において修得した単位については、規程第13条及び次項により評価を行う。

3 外国の他大学院において修得した単位又は学修の成果の評価が、UCTSの成績評価基準に基づき行われたときは、UCTSにおける成績評価、A(excellent, 10%程度)、B(very good, 25%程度)、C(good, 30%程度)、D(satisfactory 25%程度)、E(sufficient, 10%程度)、F x (fail)、F (fail)と本学における秀、優、良、可、

不可との対応は、Aは秀、Bは優、C及びDは良、Eは可、F x及びFは不可として判定する。UCTS以外の基準に基づき成績評価が行われたときは、当該成績の評価基準等を勘案の上、別途判定する。ただし、本学又は本学院との間の交流協定等で成績の換算に関する取り決めがなされている他大学院において修得した単位については、原則として、当該交流協定等が定める方法に基づき成績を判定する。

(審査及び認定)

第5条 本学院が履修を許可し、他大学院において修得した単位又は学修の成果については、教授会において審査を行う。

2 審査において、認定又は非認定の判定を行い、認定の場合は、認定する当該授業科目の単位数及び成績評価の判定を併せて行う。

(認定に係る手続き)

第6条 他大学院において履修の上、修得した単位又は学修の成果について、本学院において単位認定を希望する場合は、原則として、履修前に教授会の議を経るものとする。

2 本申し合わせによる手続方法・書式等については、学院長が別に定める。

附 則

この申し合わせは、平成24年4月1日以降に履修を開始するものから適用する。

資料30 実行教育課程表

環境起学専攻

授業科目	単位	開講時期	授業形態
修士課程			
(必修科目)			
環境起学論文講読Ⅰ	4	通年	卒業論文(研究)
環境起学特別研究Ⅰ	8	通年	卒業論文(研究)
(選択科目)			
環境科学基礎論	2	2学期集中	講義
地球環境科学総論	2	1学期集中	講義
地球温暖化総論	2	1学期	講義
環境修復学総論	2	1学期	講義
オゾン層破壊・紫外線影響評価総論	2	1学期	講義
生態系機能学総論	2	1学期前半	講義
水循環学総論	2	1学期	講義
共生システム創成学総論	2	1学期	講義
地球温暖化メカニズム特論	2	1学期	講義
地球温暖化物質科学特論	2	1学期	講義
地球温暖化生態学特論	2	2学期	講義
成層圏オゾン変動特論	2	1学期	講義
対流圏広域汚染特論	2	2学期	講義
保全生態学特論	2	1学期後半	講義
環境保全学特論	2	2学期	講義
水資源物理学特論	2	2学期	講義
流域環境学特論	2	2学期	講義
環境修復学特論	2	1学期	講義
環境修復研究法特論	2	2学期	講義
野外環境学特論	2	1学期	講義
生物資源環境学特論	2	2学期前半	講義
環境解析学特論	2	1学期	講義
国際コミュニケーション法特論	2	1学期	講義
地球温暖化対策特別講義	2	1学期集中	講義
環境国際関係論特別講義	2	1学期集中	講義
環境社会学特別講義	2	2学期	講義
環境解析法演習	4	通年	演習
国際コミュニケーション法演習	4	1学期	演習
環境保全教育法演習	4	通年	演習
統合環境観測法実習	4	通年	実験・実習
統合環境調査法実習	4	1学期集中	実験・実習
環境保全教育法実習	4	2学期集中	実験・実習
統合環境分析法実習	4	1学期	実験・実習
博士後期課程			
(必修科目)			
環境起学論文講読Ⅱ	4	通年	卒業論文(研究)
環境起学特別研究Ⅱ	8	通年	卒業論文(研究)

地球圏科学専攻

授業科目	単位	開講時期	授業形態
修士課程			
(必修科目)			
地球圏科学論文講読Ⅰ	4	通年	卒業論文(研究)
地球圏科学特別研究Ⅰ	8	通年	卒業論文(研究)
(選択科目)			
古環境学基礎論	2	1学期前半	講義
地球雪氷学基礎論	2	1学期前半	講義
大気海洋物理学基礎論	2	1学期前半	講義
大気海洋化学基礎論	2	1学期前半	講義
第四紀環境変動特論	2	2学期前半	講義
山岳環境科学特論	2	2学期後半	講義
陸域環境統合システム特論	2	1学期	講義
陸圏物質循環学特論	2	2学期前半	講義
古気候変動学特論	2	1学期	講義
大気圏化学特論	2	1学期	講義
化学海洋学特論	2	1学期	講義
海洋堆積学特論	2	2学期前半	講義
環境分析化学特論	2	1学期	講義
生物地球科学特論	2	2学期前半	講義
氷河・氷床学特論	2	2学期	講義
雪氷水文学特論	2	1学期後半	講義
寒冷圏気象・気候学特論	2	2学期前半	講義
応用雪氷学特論	2	1学期後半	講義
大気環境科学特論	2	1学期	講義
極域海洋学特論	2	1学期	講義
大気力学特論	2	通年	講義
海洋力学特論	2	通年	講義
気候変動特論	2	2学期	講義
気候モデリング特論	2	2学期	講義
地球流体力学特論	2	1学期	講義
大気海洋解析法特論	2	1学期	講義
惑星系物質科学特論	2	通年	講義
雪氷物性学特論	2	通年	講義
宇宙雪氷学特論	2	通年	講義
遠隔情報学特論	2	1学期後半	講義
地球圏科学特別講義Ⅰ	2	1学期集中	講義
地球圏科学特別講義Ⅱ	2	通年	講義
地球圏科学特別講義Ⅲ	2	通年	講義
地球圏科学特別講義Ⅳ	2	通年	講義
地球圏科学演習Ⅰ	4	通年	演習
地球圏科学演習Ⅱ	4	通年	演習
地球圏科学実習Ⅰ	4	通年	実験・実習
地球圏科学実習Ⅱ	4	通年	実験・実習
地球雪氷学実習	4	通年	実験・実習
博士後期課程			
(必修科目)			
地球圏科学論文講読Ⅱ	4	通年	卒業論文(研究)
地球圏科学特別研究Ⅱ	8	通年	卒業論文(研究)

生物圏科学専攻

授業科目	単位	開講時期	授業形態
修士課程			
(必修科目)			
生物圏科学論文講読Ⅰ	4	通年	卒業論文(研究)
生物圏科学特別研究Ⅰ	8	通年	卒業論文(研究)
(選択科目)			
多様性生物学基礎論	2	2学期前半	講義
生態学基礎論	2	2学期後半	講義
分子生物学基礎論	2	1学期	講義
海洋生物環境学基礎論	2	1学期前半	講義
フィールド科学基礎論	2	2学期	講義
生物生産学基礎論	2	1学期集中	講義
多様性生物学特論Ⅰ	2	1学期前半	講義
多様性生物学特論Ⅱ	2	2学期	講義
生態遺伝学特論Ⅰ	2	2学期前半	講義
生態遺伝学特論Ⅱ	2	2学期後半	講義
環境分子生物学特論Ⅰ	2	1学期	講義
環境分子生物学特論Ⅱ	2	2学期前半	講義
植物生態学特論Ⅰ	2	1学期後半	講義
植物生態学特論Ⅱ	2	2学期前半	講義
動物生態学特論Ⅰ	2	1学期前半	講義
動物生態学特論Ⅱ	2	2学期前半	講義
海洋生物圏環境科学特論Ⅰ	2	2学期前半	講義
海洋生物圏環境科学特論Ⅱ	2	2学期後半	講義
水圏科学特論Ⅰ	2	1学期後半	講義
水圏科学特論Ⅱ	2	2学期前半	講義
森林圏科学特論Ⅰ	2	1学期集中	講義
森林圏科学特論Ⅱ	2	1学期集中	講義
森林圏科学特論Ⅲ	2	1学期集中	講義
森林圏科学特論Ⅳ	2	2学期集中	講義
耕地圏科学特論Ⅰ	2	1学期	講義
耕地圏科学特論Ⅱ	2	2学期	講義
生物圏科学特別講義Ⅰ	2	1学期集中	講義
生物圏科学特別講義Ⅱ	2	1学期集中	講義
生物圏科学実習Ⅰ	4	通年	実験・実習
生物圏科学実習Ⅱ	4	通年	実験・実習
博士後期課程			
(必修科目)			
生物圏科学論文講読Ⅱ	4	通年	卒業論文(研究)
生物圏科学特別研究Ⅱ	8	通年	卒業論文(研究)

環境物質科学専攻

授業科目	単位	開講時期	授業形態
修士課程			
(必修科目)			
環境物質科学論文講読Ⅰ	4	通年	卒業論文(研究)
環境物質科学特別研究Ⅰ	8	通年	卒業論文(研究)
環境物質科学基礎論Ⅰ	2	通年	講義
環境物質科学基礎論Ⅱ	2	通年	講義
環境物質科学基礎論Ⅲ	2	通年	講義
(選択必修科目)			
分子環境学特論Ⅰ	2	1学期	講義
資源分子化学特論	2	1学期	講義
化学物質影響学特論	2	2学期	講義
環境生態化学特論	2	2学期	講義
環境触媒学特論	2	1学期	講義
分子機能材料特論	2	2学期	講義
ナノ構造制御化学特論	2	1学期	講義
光分子化学特論	2	1学期	講義
電子材料科学特論	2	2学期	講義
光触媒化学特論	2	1学期	講義
表面機能科学特論	2	1学期	講義
反応制御化学特論	2	2学期	講義
(選択科目)			
分子環境学特論Ⅱ	2	2学期	講義
分子環境学特論Ⅲ	2	2学期	講義
環境物質科学特別講義Ⅰ	2	1学期集中	講義
環境物質科学特別講義Ⅱ	2	1学期集中	講義
環境物質科学実習Ⅰ	4	通年	実験・実習
環境物質科学実習Ⅱ	4	通年	実験・実習
博士後期課程			
(必修科目)			
環境物質科学論文講読Ⅱ	4	通年	卒業論文(研究)
環境物質科学特別研究Ⅱ	8	通年	卒業論文(研究)

資料31 社会人学生一覧

入学年度	学籍区分名	専攻名	入学者数	備考
平成20年度	修士課程		0	
	博士後期課程		0	
平成21年度	修士課程	環境起学	1	
	博士後期課程	環境起学	3	うち10月入学者2名
		生物圏科学	3	
平成22年度	修士課程		0	
	博士後期課程	環境起学	2	全員10月入学者
		生物圏科学	3	
平成23年度	修士課程	環境物質科学	1	
	博士後期課程	環境起学	3	うち10月入学者2名
		生物圏科学	2	うち10月入学者1名
		環境起学	2	
平成24年度	修士課程		0	
	博士後期課程	環境起学	3	全員10月入学門者
		地球圏科学	1	
		生物圏科学	2	
		環境物質科学	1	
平成25年度	修士課程		0	
	博士後期課程	生物圏科学	2	うち10月入学者1名
		環境起学	1	
合計			30	

資料32 長期履修学生一覧

入学年度	学籍区分名	学年	専攻	入学者数	長期履修期間			備考
					開始年月日	終了年月日	期間(年)	
平成21年度	博士後期課程	3	生物圏科学	2	H21.4.1	H27.3.31	6	環境起学から転専攻(H24.4.1)
					H21.4.1	H25.3.31	4	2014.3.31単位修得退学
			環境起学	1	H21.10.1	H25.9.30	4	留年
平成21年度	博士後期課程	3	生物圏科学	2	H22.4.1	H28.3.31	6	
					H24.4.1	H27.3.31	3	
平成23年度	博士後期課程	2	生物圏科学	1	H24.4.1	H29.3.31	5	
平成25年度	博士後期課程	1	環境起学	1	H25.4.1	H29.3.31	4	
合計				7				

資料33

平成 26 年度 学年暦

前期前半	4月7日(月) ~ 6月10日(火)
前期後半	6月9日(月) ~ 8月6日(水)

後期前半	10月2日(木) ~ 12月3日(水)
後期後半	11月27日(木) ~ 2月4日(水)

【注意】開始日および終了日は、曜日または科目により異なる場合があるので、必ず授業担当教員に確認して下さい。

4 April 2014						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
		1	2	3	4 入学式	5
6	7	8	9	10	11	12
	集中講義			①	①	
13	14	15	16	17	18	19
	①	①	①	②	②	
20	21	22	23	24	25	26
	②	②	②	③	③	
27	28	29	30			
	③	昭和の日	③			

10 October 2014						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
			1 入学式	2	3	4
				①	①	
5	6	7	8	9	10	11
	①	①	①	②	②	
12	13	14	15	16	17	18
	① 体育の日	②	②	③	③	
19	20	21	22	23	24	25
	②	③	③	④	④	
26	27	28	29	30	31	
	③ 入試	④	④	⑤	⑤	

5 May 2014						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
				1	2	3
				④	④	憲法記念日
4	5	6	7	8	9	10
みどりの日	こどもの日	振替休日	④	⑤	⑤	
11	12	13	14	15	16	17
	④	③	⑤	⑥	⑥	
18	19	20	21	22	23	24
	⑤	④	⑥	⑦	⑦	
25	26	27	28	29	30	31
	⑥ 入試	⑤	⑦	⑧	⑧	

11 November 2014						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
						1
2	3	4	5	6	7	8
	文化の日	⑤	④	⑥	⑥	
9	10	11	12	13	14	15
	⑤	⑥	⑤	⑦	⑦	
16	17	18	19	20	21	22
	⑥	⑦	⑥	⑧	⑧	
23	24	25	26	27	28	29
③ 振替休日	⑧	⑦	①	⑦		

6 June 2014						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
1	2	3	4	5	6	7
	⑦	⑥	⑧	⑧	⑦	
8	9	10	11	12	13	14
	①	⑧	①	①	①	
15	16	17	18	19	20	21
	②	①	②	②	②	
22	23	24	25	26	27	28
	③	②	③	③	③	
29	30					
	④					

12 December 2014						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
	1	2	3	4	5	6
	⑧	①	⑧	②	①	
7	8	9	10	11	12	13
	①	②	①	③	②	
14	15	16	17	18	19	20
	②	③	②	④	③	
21	22	23	24	25	26	27
	③	天皇誕生日	③	④	④	
28	29	30	31			
		③ 冬季休業				

7 July 2014						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
		1	2	3	4	5
		③	④	④	④	
6	7	8	9	10	11	12
	⑤	④	⑤	⑤	⑤	
13	14	15	16	17	18	19
	⑥	⑤	⑥	⑥	⑥	
20	21	22	23	24	25	26
	⑥ 海の日	⑥	⑦	⑦	⑦	
27	28	29	30	31		
	⑦	⑦	⑧	⑧		

1 January 2015						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
				1 元日	2 冬季休業	3
4	5	6	7	8	9	10
	⑤	④	④	⑤	⑤	
11	12	13	14	15	16	17
	⑤ 成人の日	⑤	⑤	⑥	⑥	
18	19	20	21	22	23	24
	⑥	⑥	⑥	⑦	⑦	
25	26	27	28	29	30	31
	⑦	⑦	⑦	⑧	⑧	

8 August 2014						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
					1	2
					⑧	
3	4	5	6	7	8	9
オープンキャンパス		⑧	⑧			
10	11	12	13	14	15	16
			夏季休業日			
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
③ 入試	③ 入試					

2 February 2015						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
1	2	3	4	5	6	7
	⑧	⑧	⑧	修論)起学	修論)起学	
8	9	10	11	12	13	14
	修論)地球	修論)地球	建国記念日	修論)生物	修論)生物	
15	16	17	18	19	20	21
	修論)物質	修論)物質				
22	23	24	25	26	27	28
				入試	入試	

9 September 2014						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
	敬老の日					
21	22	23	24	25	26	27
		秋分の日		学位記授与式		
28	29	30				

3 March 2015						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
						春分の日
22	23	24	25	26	27	28
			学位記授与式			
29	30	31				

資料34 留学生支援制度利用による平成25年度派遣者一覧

(短期研究・研修型、国際ネットワークにもとづく学生短期派遣型フィールド環境科学の次世代育成プログラム)

プログラム実施期間:平成25年7月15日～平成26年3月31日

	性別	在籍課程	在籍年次	派遣先			
				国名	都市名	派遣先大学名	学部・研究科名
1	女	M	2	モンゴル	ウランバートル	モンゴル国立大学	
2	男	M	1	ロシア	ヤクーツク	北東連邦大学	生物地理学科
3	女	M	1	スイス	チューリッヒ	スイス連邦工科大学	水理水文氷河学研究所
4	男	M	1	スイス	チューリッヒ	スイス連邦工科大学	水理水文氷河学研究所
5	男	M	1	スイス	チューリッヒ	スイス連邦工科大学	水理水文氷河学研究所
6	男	M	1	スイス	チューリッヒ	スイス連邦工科大学	水理水文氷河学研究所
7	男	D	3	アメリカ	フェアバンクス	アラスカ大学	水質・環境研究所、北部工学研究所、国際北極圏研究センター

資料35 留学生支援制度利用 平成25年度受入者一覧

(短期研究・研修型、国際ネットワークにもとづく学生短期受入れ型フィールド環境科学の次世代育成プログラム)

プログラム実施期間:平成25年5月21日～平成26年3月31日

	性別	国籍	受入れ校での情報		在籍大学等(海外の高等教育機関)での状況				
			在籍課程	在籍年次	国名	都市名	在籍大学名	学部・研究科名	協定等
1	男	台湾	M	2	台湾	花蓮	国立東華大学	天然資源・環境学系	有
2	男	ロシア	M	1	ロシア	ヤクーツク	北東連邦大学	生物地理学科	有
3	男	ロシア	M	1	ロシア	ヤクーツク	北東連邦大学	生物地理学科	有
4	男	モンゴル	M	2	モンゴル	ウランバートル	モンゴル国立大学	生物学科	有

資料 36 地球環境科学研究所公開講座(平成 20 年度～平成 25 年度)

平成 20 年度 テーマ：ヒトと地球にやさしい化学技術

1. 教授 大谷 文章 光による環境浄化とエネルギー変換－光触媒反応の応用
2. 准教授 神谷 裕一 化学の力で環境をきれいにする－触媒による環境浄化－
3. 准教授 沖野 龍文 船にフジツボをつけない技術
4. 教授 太田 信廣 発光を観測することにより細胞や材料を調べる
5. 教授 田中 俊逸 汚染された環境をレメディエート（修復）する
6. 教授 坂入 信夫 身近なバイオマス糖質資源の利用

平成 21 年度 テーマ：異分野融合によって新たな環境科学を起こす

1. 教授 池田 元美 環境問題は複雑にからみあったパズル
2. 教授 古月 文志 ナノテクノロジーの功罪
3. 特任助教 根岸 淳二郎 河川から見る流域環境の変化とその保全
4. 特任助教 佐藤 友徳 水資源は自然の恵み
5. 特任准教授 藤井 賢彦 循環型社会と低炭素社会
6. 准教授 石川 守 途上国の脆弱な環境

平成 22 年度 テーマ：北海道の自然環境再考：その危機的現象をとらえる

1. 特任助教 小泉 逸郎 サケ科魚類の魅力と、彼らを取りまく現状
2. 准教授 工藤 岳 大雪山の高山生態系の変貌
3. 准教授 露崎 史朗 湿原の保全と復元－サロベツ湿原を事例として－
4. 准教授 渡邊 悌二 大雪山の荒廃する登山道
5. 准教授 白岩 孝行 アムール川とオホーツク海：陸海境界・国境を越えた環境シテムの発見と保全
6. 教授 平川 一臣 北海道の川と海岸の危機的地形現象

平成 23 年度 テーマ：生物の環境への適応

1. 教授 東 正剛 適応と多様性をもたらす分子基盤
2. 教授 大原 雅 多様な環境に適応・進化してきた林床植物の生活史戦略
3. 教授 甲山 隆司 木々のあいだの競争・共存と、森林の果たす役割
4. 教授 木村 正人 北国の動物と虫たち：どのようにして冬を越すのだろうか
5. 教授 森川 正章 水生植物と根圏細菌の共生作用を活用した持続可能な環境浄化
6. 教授 高田 壯則 コンピューターの中の生命

平成 24 年度 テーマ：環境を支える化学

1. 教授 大谷 文章 光触媒反応による環境浄化とエネルギー変換
2. 准教授 沖野 龍文 海と湖の厄介者と化学
3. 教授 坂入 信夫 童話の中の環境化学
4. 准教授 廣川 淳 オゾンとエアロゾルの大気化学
5. 准教授 神谷 裕一 触媒による空気と水の清浄化
6. 教授 中村 博 金属イオンの濃度を調べる試薬

平成 25 年度 テーマ：東日本東北沖大地震と北海道

1. 教授 渡邊 悌二 観光産業への被害と観光のこれから
2. 名誉教授 小野 有五 福島第一原発事故とこれから～泊原発を考える
3. 教授 橋本 雄一 デジタル地図で考える津波危険地域の住民避難
4. 名誉教授 平川 一臣 2011, 3.11 津波に学び, 正しく畏れる
5. 教授 田中 俊逸 放射性物質で汚染された土壌の修復は可能か
6. 教授 渡辺 豊 放射能は世界を巡る

資料37 地球環境科学総論履修者数一覧

	日本語版			英語版		
	①環境科学 院開講分履 修者	②大学院共 通科目履修 者	合計	①環境科学 院開講分履 修者	②大学院共 通科目履修 者	合計
平成20年度	107	68	175	2	0	2
平成21年度	97	66	163	5	0	5
平成22年度	35	101	136	3	0	3
平成23年度	88	70	158	4	0	4
平成24年度	65	69	134	2	0	2
平成25年度	40	80	120	5	0	5

※ 履修者数には、他部局に所属する履修学生分も含まれる。(数名程度)

資料38 平成25年度入学者における出身大学割合について

	入学者数	北大卒	割合	他大学卒	割合
修士課程	132	69	52%	63	48%
博士後期課程	45	31	69%	14	31%
合計	177	100	56%	77	44%

資料39 博士後期課程修了率一覧表(入学年度別)

平成26年11月17日現在

入学年度	入学者	在学中	退学等*	修了者*	修了率
平成21年度	45	8	8	29	64%
平成22年度	48	7	3	38	79%
平成23年度	55	24	7	24	44%

*退学等：退学、除籍、単位修得退学後学位を取得していない者

*修了者：単位修得退学後、論文博士として学位を取得した者を含む

*入学者は10月入学者を含む

部局等名： 大学院環境科学院

資金の種類	特定資金 (学部等支援)
事業名	平成25年度 優秀修士学生海外学会派遣プログラム
PJ名称	フロンティア基金 (平成25年度 優秀修士学生海外学会派遣プログラム)
所管名称	環境) 大原 雅
配分目的	①. 教育目的 2. 研究目的 3. 一般管理目的
事業の実施内容 (概略及び予算等を記入してください。)	<p>環境科学院に在籍する優秀な修士学生の海外で開催される学会での発表の旅費、滞在費 (支給総額上限を10万円/1件として) を支援する。</p> <p>添付した募集要項に基づき、選考を行い、2名の者の派遣が決定している。</p> <p>1) 国際園芸学会 (2013年10月6日~10日: 韓国・済州島)</p> <p>2) 保全科学学生会議 (2014年3月25日~27日: イギリス・ケンブリッジ)</p> <p>予算: 20万円 (10万円×2名)</p>

資料40-2 北大フロンティア基金決算報告書

部局等名： 大学院環境科学院

資金の種類	特定資金 (学部等支援)
事業名	平成25年度 優秀修士学生海外学会派遣プログラム

(単位：円)

予算額	200,000	執行額	200,000	繰越額	0	差引残額	0
-----	---------	-----	---------	-----	---	------	---

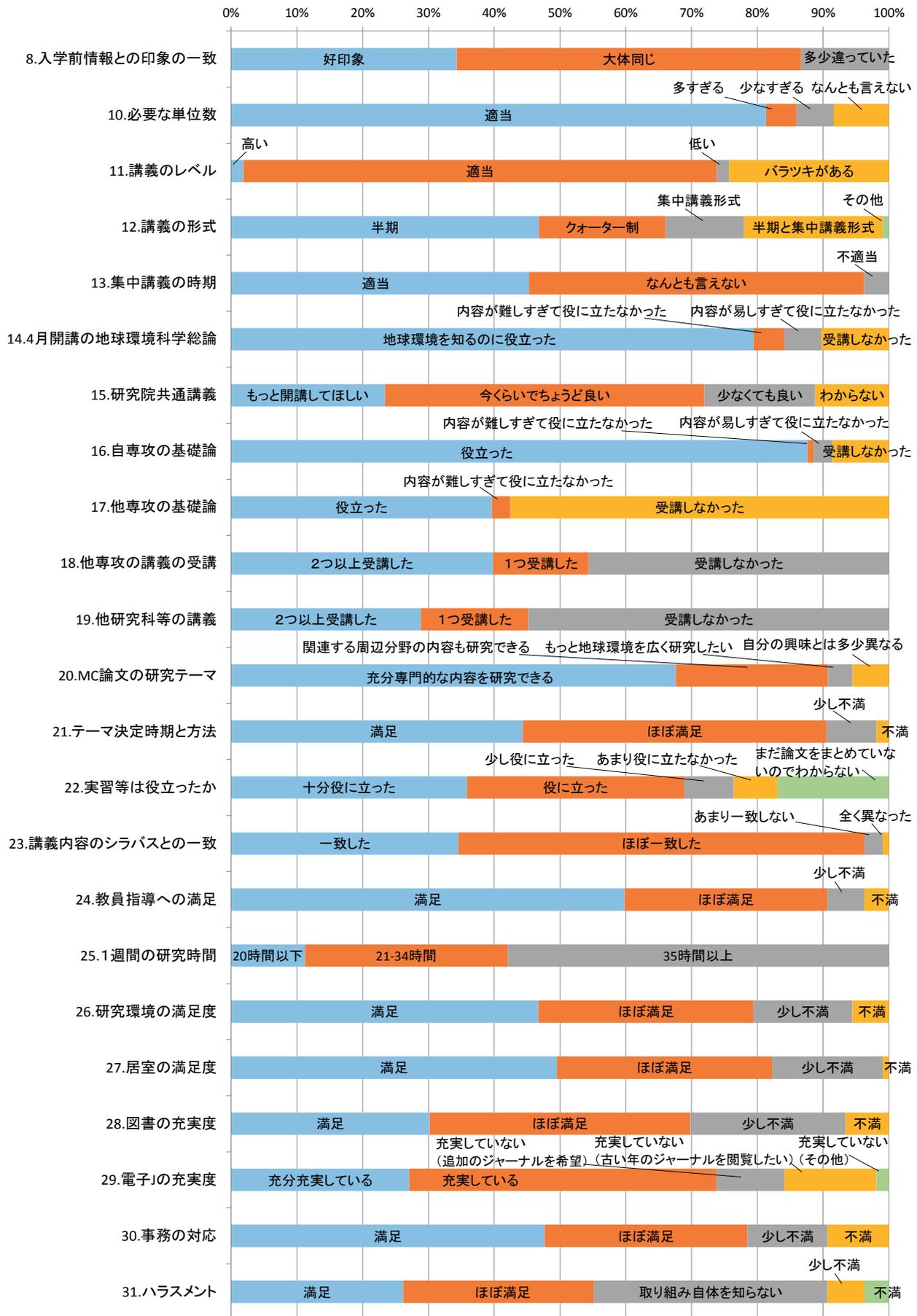
(内 訳)

区 分	執行額・繰越額 明細	予算額	執行額	繰越額	差引残額	備 考
謝 金			0	0		
	〇〇〇データ作成					
旅 費				0		
	国際園芸学会 (2013/10/6-10 : 韓国		100,000			
	保全科学学生会議 (2014/3/25-27 :		100,000			
備 品 費			0	0		
	〇〇〇装置					
消 耗 品 費			0	0		
	〇〇〇〇					
	◇◇◇◇					
図 書 費			0	0		
	〇〇〇関係図書					
印刷製本費			0	0		
	〇〇〇報告書					
そ の 他			0	0		
	〇〇〇人件費					
	◇◇◇◇					
計		0	200,000	0	-200,000	

部局等名： 大学院環境科学院

資金の種類	特定資金 (学部等支援)
事業名	平成25年度 優秀修士学生海外学会派遣プログラム
PJ名称	フロンティア基金 (平成25年度 優秀修士学生海外学会派遣プログラム)
所管名称	環境) 大原 雅
配分目的	①. 教育目的 2. 研究目的 3. 一般管理目的
事業の具体的な実施内容	<p>本基金の支援により、大学院環境科学院・修士課程2年に在籍する2名の学生に対し、海外で開催される国際会議の参加・発表支援を行った。</p> <p>1) 国際園芸学会 (2013年10月6日～10日：韓国・済州島) 派遣学生：山川利奈 (生物圏科学専攻) 発表タイトル：「Chicory (<i>Cichorium intybus</i>) production of using local snow and terrestrial heat energy in mid-summer Japan」</p> <p>2) 保全科学学生会議 (2014年3月25日～27日：イギリス・ケンブリッジ) 派遣学生：Harisoa Rakotonoely (ハリスア ラクツヌエリ) (環境起学専攻) 発表タイトル：「Dwarf bamboo vs. trees: the post-fire battle: Growth of <i>Betula platyphylla</i> var. <i>japonica</i> relative to biomass recovery of <i>Sasa senanensis</i> and soil characteristics after an experimental forest fire」</p> <p>帰国後、両学生より、「報告書」、「発表ポスター」、「学会会場のスナップショット」を提出してもらった。すべての内容から、本基金による支援は、とても有意義なもので、充実した内容であったことが伺える。(添付資料を参照されたい)</p>

平成25年度 在学学生に対するアンケート調査結果 修士



平成25年度環境科学院アンケート(修士課程)自由記述欄回答一覧

9. 学院の入学志願者に対する広報に関して改善すべき点があればお書きください。

- 多くの卒業生からの紹介があれば、もっと良い。
- 専攻、コースの名前が難解なものが多く、イメージするのが難しい。希望分野から担当教員を探せるシステムがあれば良いと思う。
- ホームページに「環境科学院とは？」みたいなものを、もっと大きく書いてほしかった。理念なども、もっと大きくアピールして良いと思う。そのあたりが、少し地味な印象でした。
- もう少し、環境科学院の研究を、内ではなく外で発表すべき。学会ではなく学祭や多くの場で行うべきと感じます。
- 専攻→コース→分野の仕分けを、もっとわかりやすいようにしてほしいです。
- 将来、どんな職場で仕事ができるかなどを知りたい。
- 情報が浅い。もっと深い所まで知りたかった。

(回答数 7)

12. 本学院教員による講義の形式は以下のどれが適当と思われますか。

- クォーター制と半期を組み合わせた方がいい。
- ※「e.その他」の括弧内に記載

(回答数 1)

31. ハラスメントについて、相談窓口の設置など、本学院の取り組みをどのように評価されますか。

- ハラスメントを行う人間がハラスメント委員についていることがそもそもおかしい。外部の人間をハラスメント委員にするべきだと思う。
- ハラスメント委員会の構成員が何故教員なのか。第三者でなければ意味がないと思う。
- 教員に相談しても無意味で、第三者機関等があれば良い。

32. 研究・教育環境などに関して学院に対する要望や評価する点があればお書きください。

- ・土曜日は休みにしてほしい。
- ・修士論文の研究に関して、担当教員に一任しすぎだと思う。研究室共通のルールを作るべきだと思う。研究室によって、しばられる時間の差が大きい。実験に費やす時間が多いせいで就活に支障があるので改善してほしい。
- ・測定機器の充実。
- ・院生居室への水道設備。市水を利用することができる水道が少ないように思います。
- ・入学手続の際に提出する写真が、証明写真の規格と大きく異なり用意が大変。
- 授業に対するアセスメントだけでなく、教員に対するアセスメントを行ってほしい。休学・退学する学生が多い教員は、決まった期間、次の学生を持ってないなどの対策をしてほしい。
- 問25の項目では実態が把握できないと思います。

※問25

一週間のうちに修士論文の研究を行う時間はどのくらいですか。

A. 20時間以下 B. 21－34時間 C. 35時間以上

- 英語の論文などはすごく読ませられるけど、英語力をアップするための授業などは全然ない。
- 研究と教育環境は十分だと思います。将来、中国との交流が多くなることを希望します。
- 学部同様に、成績確認がWEB（せめて玄関のマシン）で可能であればと思います。
- ・指導教員によって学生の研究環境にバラツキが大きい。不公平感を低減してほしい。
- ・教員の研究や学外活動を学生にもっとフィードバックしてほしい。
- 学生部屋（居室）の割り振りについては再考してほしい。起学、実践コースの人達と同じ部屋になると、居室で企画の打ち合わせをされるため、うるさくて研究に集中できない。「どういう目的で居室を割り振っている

のか」を示してくれないと、馴れ合いというか、ただうるさいだけになってしまう。

- 教員の指導能力に関する教育を充実させてほしい。いくら研究機関だからといって、学生の教育をおろそかにするのは如何なものかと思います。
- ・設備なども含めて、研究環境には満足している。
・講義のために、低温と環境科学院を行き来するのは大変だった。低温研で開講する科目を増やすか、行き来の手間を解消するような工夫をしてほしい。
- F S C各ステーションの建物が老朽化しているので、できれば改善してほしい。
- 北キャンパスから環境科学院までの事務手続きの際の連絡に時間がかかる。
- 十分な指導があり、満足です。
- 最高！！
- I think we should guide our student how to contribute to environment field after their graduation、 not just only get any unrelated job.

(回答数 16)

33. 最後に最近困っていることはありませんか？専攻／学院として行う学生支援としてどのようなことを期待していますか。何かあればお書きください。

- 指導教員とそりが合わない。
- 就活。研究室によって自由にできない所もある。
- 生活費のためにアルバイトをしなければなりません。それで勉強の時間を取られています。
- 専門の勉強をしたのはいいが、その専門知識を活かせる仕事がほぼないこと。
- 購買施設があれば、もっと過ごしやすいです。
- 居室に窓がなくてちょっとイヤです。
- Try to help the students without scholarship.
- I hope the faculty will support me if I get hated from other graduate school because of nothing.

(回答数 8)

平成25年度 在籍学生に対するアンケート調査項目

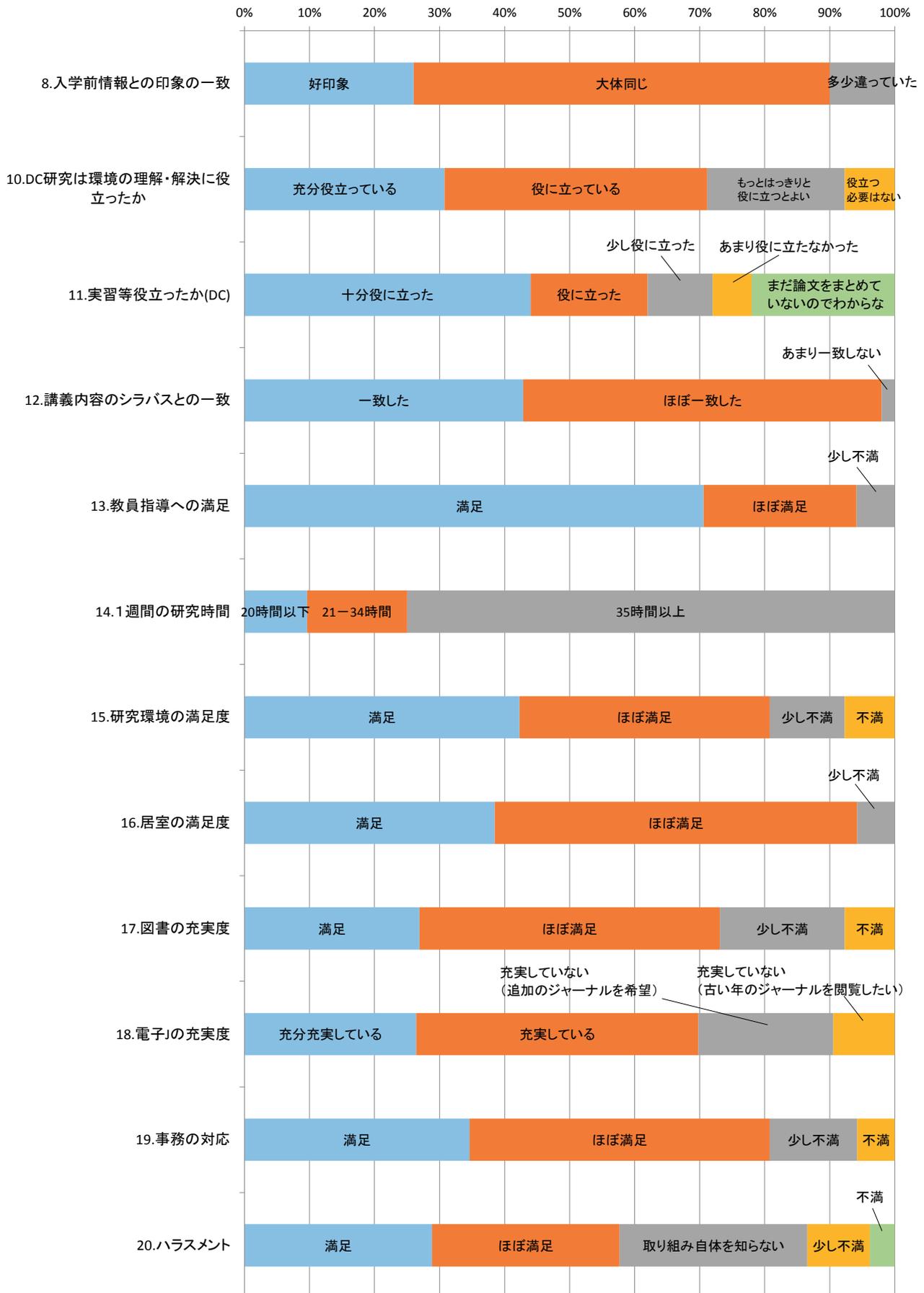
【修士課程在籍学生】

1. あなたは地学系ですか、物理系ですか、化学系ですか、それとも生物系ですか。
a. 地学系 b. 物理系 c. 化学系 d. 生物系
2. あなたの学年と専攻を教えてください(2014年2月現在)。
学年:a. 修士1年 b. 修士2年
専攻:a. 環境起学 b. 地球圏科学 c. 生物圏科学 d. 環境物質科学
3. あなたは本学院の存在をどのような方法で知りましたか。
a. 学院パンフレット b. Web Page c. 出身大学の教員・先輩 d. 学会活動
e. マスメディア f. オープンキャンパス・施設公開 g. その他()
4. あなたは学院説明会に参加されましたか。参加された方は、説明会の開催地も選択してください。
a. 参加した(a1. 東京 a2. 大阪 a3. 札幌) b. 参加していない
5. 学院説明会は進路の決定に役立ちましたか。
a. 非常に役立った b. 役立った c. どちらとも言えない d. あまり役立たなかった
e. 全く役立たなかった
6. あなたは入学願書を出す前に、志望予定の研究室を訪問しましたか。
a. 訪問した b. 訪問していない
7. 6でaと回答された方は、どれぐらい前に訪問しましたか。
a. 1年前 b. 半年前 c. 4ヶ月前 d. 3ヶ月前 e. 2ヶ月前 f. 1ヶ月前
g. その他()
8. 入学志願者に学院から提供される情報(学院パンフレット、Web Page、教員の話など)と実際に入ってみての印象はどうでしたか。
a. 好印象 b. 大体同じ c. 多少違っていた
9. 学院の入学志願者に対する広報に関して改善すべき点があればお書きください
10. 学位取得のために必要な単位数は多いと思いますか。
a. 適当 b. 多すぎる c. 少なすぎる d. なんとも言えない
11. あなたが受講した講義のレベルはどのように評価できますか。
a. 高すぎる b. 適当 c. 低すぎる d. バラツキがある
12. 本学院教員による講義の形式は以下のどれが適当と思われますか。
a. 半期 b. クォーター制 c. 集中講義形式 d. 半期と集中講義形式
e. その他()

13. 外部の非常勤講師による集中講義の時期は適当ですか。
 - a. 適当 b. なんとも言えない c. 不適当
14. 修士課程入学直後に開講されている地球環境科学総論は役に立ちましたか。
 - a. 地球環境を知るのに役立った b. 内容が難しすぎて役に立たなかった
 - c. 内容が易しすぎて役に立たなかった d. 受講しなかった
15. 地球環境科学総論のような共通講義は
 - a. もっと開講してほしい b. 今くらいでちょうど良い c. なくても良い d. わからない
16. 所属している専攻で開講している基礎論(環境起学専攻においては総論)は役に立ちましたか。
 - a. 役立った b. 内容が難しすぎて役に立たなかった c. 内容が易しすぎて役に立たなかった
 - d. 受講しなかった
17. 他専攻で開講している基礎論は役に立ちましたか。
 - a. 役立った b. 内容が難しすぎて役に立たなかった c. 内容が易しすぎて役に立たなかった
 - d. 受講しなかった
18. 基礎論以外の他専攻の講義を受講しましたか？
 - a. 2つ以上受講した b. 1つ受講した c. 受講しなかった
19. 他学院または他研究科、あるいは大学院共通講義(15に記載の講義を除く)を受講しましたか。
 - a. 2つ以上受講した b. 1つ受講した c. 受講しなかった
20. 修士論文の研究テーマについて
 - a. 充分専門的な内容を研究できる b. 関連する周辺分野の内容も研究できる
 - c. もっと地球環境を広く研究したい d. 自分の興味とは多少異なる
21. 修士論文の研究テーマを決定する時期と方法についてどう思われますか。
 - a. 満足 b. ほぼ満足 c. 少し不満 d. 不満
22. 実習、演習、フィールド調査は修士論文をまとめる際に役立ちましたか。
 - a. 十分役に立った b. 役に立った c. 少し役に立った d. あまり役に立たなかった
 - e. まだ論文をまとめていないのでわからない
23. 講義の内容はシラバスの内容と一致していましたか。
 - a. 一致した b. ほぼ一致した c. あまり一致しない d. 全く異なった
24. 教員の研究指導には満足していますか。
 - a. 満足 b. ほぼ満足 c. 少し不満 d. 不満
25. 一週間のうちに修士論文の研究を行う時間はどのくらいですか。
 - a. 20時間以下 b. 21-34時間 c. 35時間以上
26. 現在の研究環境(実験設備、コンピュータの使用、フィールド調査、安全対策など)について満足していますか。

- a. 満足 b. ほぼ満足 c. 少し不満 d. 不満
27. あなたの居室の環境はどう思われますか。
a. 満足 b. ほぼ満足 c. 少し不満 d. 不満
28. コース、専攻および学院図書室の図書・雑誌の充実度には
a. 満足 b. ほぼ満足 c. 少し不満 d. 不満
29. 本学の電子ジャーナルは充実していますか。cの場合は該当項目にもチェックしてください。
a. 充分充実している b. 充実している c. 充実していない(c1.追加のジャーナルを希望
c2. 古い年のジャーナルを閲覧したい c3.その他()
30. 事務手続きに関する連絡方法とその迅速性はどうですか。
a. 満足 b. ほぼ満足 c. 少し不満 d. 不満
31. ハラスメントについて、相談窓口の設置など、本学院の取り組みをどのように評価されますか。
a. 満足 b. ほぼ満足 c. 取り組み自体を知らない d. 少し不満
e. 不満(要望があればお書きください)
32. 研究・教育環境などに関して学院に対する要望や評価する点があればお書きください
33. 最後に最近困っていることはありませんか？専攻／学院として行う学生支援としてどのようなことを期待していますか？何かあればお書きください。

資料41-2 平成25年度 在学学生に対するアンケート調査結果 博士



平成25年度環境科学院アンケート(博士後期課程)自由記述欄回答一覧

9. 学院の入学志願者に対する広報に関して改善すべき点があればお書きください。

- I think so far so good.
- make the website more over-friendly.
- Please use English language also、because it's not everyone can read Kanji language.
- 知名度の向上
- Introduce more information of major and the course setting which was needed for applicants.
- 研究室間、講座間交流が少ない。
- 各研究室が行っている研究内容についての記述を増やすべき。
- 志望者は研究室を志望して出願するので、各専攻のHPまたは各研究室のHPを充実させた方が良い。

(回答数 8)

21. 研究・教育環境などに関して学院に対する要望や評価する点があればお書きください。

- Provide more English books in the library.
- フィールド調査等に学生も公用車を利用できるようにしてほしい。
- 自分の担当教員は函館キャンパスに所属しているので、自分は札幌と函館の両キャンパスを意識しながら事務的な作業を行う必要がありますが、両キャンパス間の事務的やりとりが比較的スムーズに行われているので助かっています。
- 札幌キャンパス以外の学生に対する支援（資料配付、連絡など）がもっとほしいです。
- 起学専攻のコースセミナーをもっと充実させてほしい。回数が少ないため有名無実化している。
- 教員どうしのつながりがみえると相談しづらい（ハラスメントについて）多少明るさは劣ってもLED照明にすれば節電しながら明るい生活がおくれるのではないかと思います。
- 各研究室同士の風通しが良くない。他の研究室のメンバーと議論、談話す

るスペースがあった方がよいのでは。

- 実践環境科学に対する学内での理解が低い様に感じます。また、環境問題に関して考えるためには、社会学や経済学の基礎的な知識がつけられるカリキュラムがあった方が実際に社会に出てから役立つ人材育成につながるのではないかと考えます。ぜひ講義に入れて欲しいです。
- 事務からの連絡をわざわざ専攻事務を介する意味がわからない。もし専攻事務がメールを転送し忘れてたら学生に十分周知されないこともある。
(実際に何度もあったと思う。)
(※ 「19. 事務手続きに関する連絡方法とその迅速性はどうですか」の設問に記載されたコメント)

(回答数 9)

22. 最後に最近困っていることはありませんか？専攻／学院として行う学生支援としてどのようなことを期待していますか。何かあればお書きください。

- I think if one's supervisor is good in communicating with the student like my supervisor, problem can be solved at that level without getting to divisions or graduate school levels-Communication is very very important between students and advisors.
- Yes, I had. Please provide English form and announcement especially the form for doctor course (before defense, there are a lot of form that we should fulfill unfortunately all of them are in Japanese.)
- Due to the increasing of the International students every year, I really appreciate if the documents/form for registration or examinations, etc, are also available in English. I think it will help the international students.
- 廊下が寒いときと暑いときがあり、極端。
- とにかく文献サービス（検索／複写）の充実を望みます。マイナーな海外ジャーナルの参照が必要になる機会がたびたびありますが、取り寄せようがなく、あきらめざるを得ないことがしばしばあります。たとえば、American Zoologist など。
- 留年した際の財政的不利、就職斡旋

- 博士課程向けの道外からの研究者招致セミナーの回数が少ない。もっと呼んでほしい。
- 金銭支援

(回答数 8)

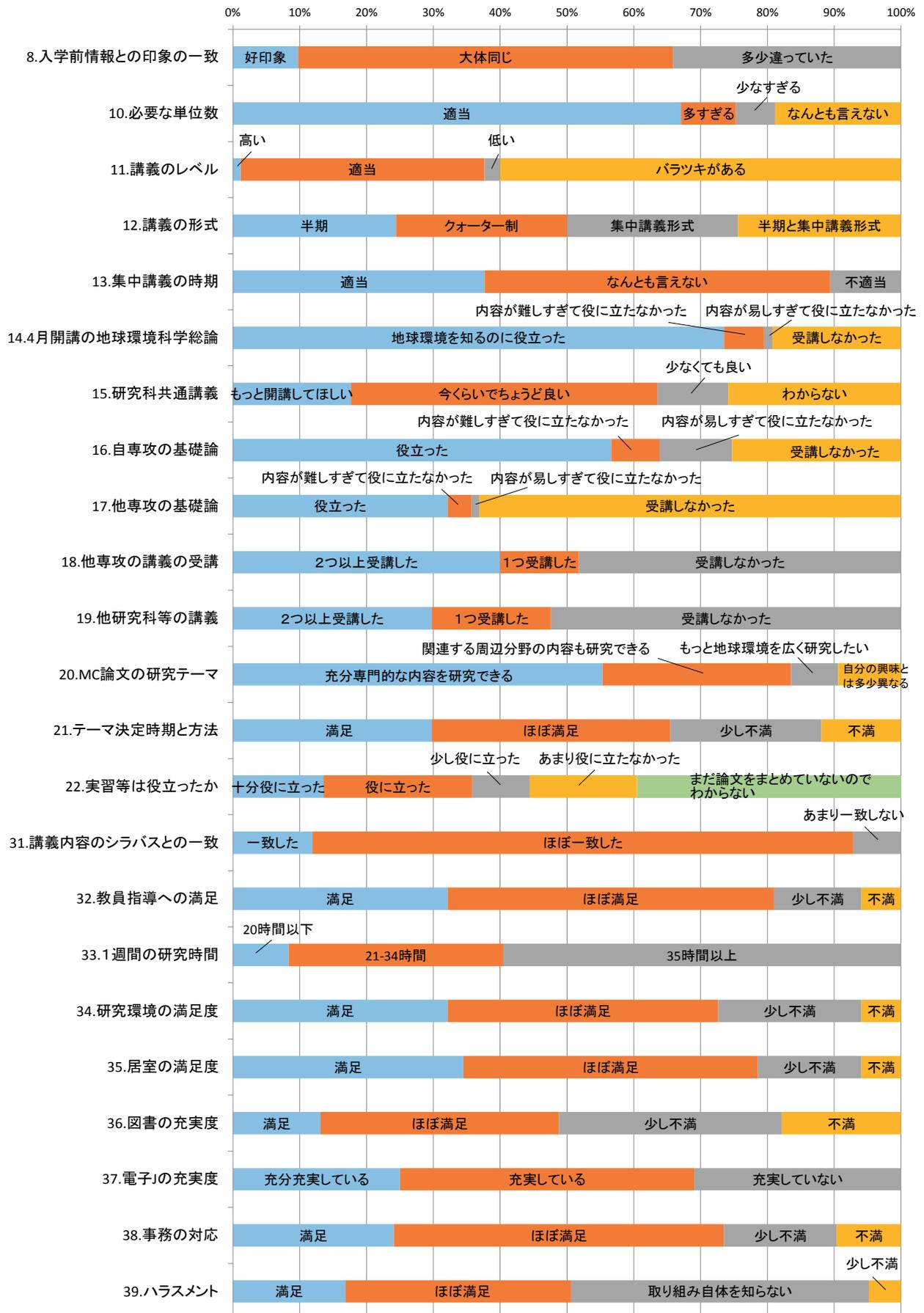
平成25年度 在籍学生に対するアンケート調査項目

【博士課程在籍学生】

1. あなたは地学系ですか、物理系ですか、化学系ですか、それとも生物系ですか。
a. 地学系 b. 物理系 c. 化学系 d. 生物系
2. あなたの学年と専攻を教えてください(2014年2月現在)。
学年:a. 博士1年 b. 博士2年 c. 博士3年
専攻:a. 環境起学 b. 地球圏科学 c. 生物圏科学 d. 環境物質科学
3. あなたは本学院の存在をどのような方法で知りましたか。
a. 学院パンフレット b. Web Page c. 出身大学の教員・先輩 d. 学会活動 e. マスメディア
f. オープンキャンパス・施設公開 g. その他()
4. あなたは学院説明会に参加されましたか。参加された方は、説明会の開催地も選択してください。
a. 参加した(a1. 東京 a2. 大阪 a3. 札幌) b. 参加していない
5. 学院説明会は進路の決定に役立ちましたか。
a. 非常に役立った b. 役立った c. どちらとも言えない d. あまり役立たなかった
e. 全く役立たなかった
6. あなたは入学願書を出す前に、志望予定の研究室を訪問しましたか。
a. 訪問した b. 訪問していない
7. 6でaと回答された方は、どれぐらい前に訪問しましたか。
a. 1年前 b. 半年前 c. 4ヶ月前 d. 3ヶ月前 e. 2ヶ月前 f. 1ヶ月前
g. その他()
8. 入学志願者に学院から提供される情報(学院パンフレット、Web Page、教員の話など)と実際に入
てみての印象はどうでしたか。
a. 好印象 b. 大体同じ c. 多少違っていた
9. 学院の入学志願者に対する広報に関して改善すべき点があればお書きください
10. 博士論文の研究は地球環境の理解、地球環境問題の解決のために
a. 充分役立っている b. 役に立っている c. もっとはっきりと役立つとよい
d. 役立つ必要はない
11. 実習、演習、フィールド調査は博士論文をまとめる際に役立ちましたか。
a. 十分役に立った b. 役に立った c. 少し役に立った d. あまり役に立たなかった
e. まだ論文をまとめていないのでわからない
12. 講義の内容はシラバスの内容と一致していましたか。
a. 一致した b. ほぼ一致した c. あまり一致しない d. 全く異なった

13. 教員の研究指導には満足していますか。
a. 満足 b. ほぼ満足 c. 少し不満 d. 不満
14. 一週間のうちに博士論文の研究を行う時間はどのくらいですか。
a. 20時間以下 b. 21-34時間 c. 35時間以上
15. 現在の研究環境(実験設備、コンピュータの使用、フィールド調査、安全対策など)について満足していますか。
a. 満足 b. ほぼ満足 c. 少し不満 d. 不満
16. あなたの居室の環境はどう思われますか。
a. 満足 b. ほぼ満足 c. 少し不満 d. 不満
17. コース、専攻および学院図書室の図書・雑誌の充実度には
a. 満足 b. ほぼ満足 c. 少し不満 d. 不満
18. 本学の電子ジャーナルは充実していますか？cの場合は該当項目にもチェックしてください。
a. 充分充実している b. 充実している c. 充実していない(c1.追加のジャーナルを希望
c2. 古い年のジャーナルを閲覧したい c3.その他()
19. 事務手続きに関する連絡方法とその迅速性はどうですか。
a. 満足 b. ほぼ満足 c. 少し不満 d. 不満
20. ハラスメントについて、相談窓口の設置など、本学院の取り組みをどのように評価されますか。
a. 満足 b. ほぼ満足 c. 取り組み自体を知らない d. 少し不満
e. 不満(要望があればお書きください)
21. 研究・教育環境などに関して学院に対する要望や評価する点があればお書きください
22. 最後に最近困っていることはありませんか？専攻／学院として行う学生支援としてどのようなことを期待していますか。何かあればお書きください。

資料41-3 平成19年度 在籍学生に対するアンケート調査結果 修士



平成19年度在籍学生に対するアンケート調査結果(自由回答) 修士課程

9. 入学志願者に対する情報提供

各項目前の数字は、アンケートの調査項目番号を示しています。(「6. 調査項目」の「6-1. 修士課程在籍学生」参照)

【環境起学専攻】

- ・起学専攻については、特に先駆コースと統合コースの位置づけと性質を、もっとわかりやすい形で表現してほしいと思います。なぜそれぞれのコースがあるのか、「具体的に」どのようなコースなのか、「具体的に」目的とすることは何かをはっきり伝わるようにすればもっと良いと思います。
- ・何でもできるようなイメージを与える可能性があり、よくない気がします。
- ・卒学生の人との話をする機会があったのは良かったと思う。
- ・優れている点は、HP の教員紹介は分かりやすく、参考になった。改善すべき点として、学生の生活・過ごし方、卒業後の進路については情報提供がなされていないので改善すべき点として挙げられると思う。
- ・インターンシップ制度は積極的に運営されていないように思えるので、パンフレットを訂正すべきだと思います。さらに統合コースについて研究中心、理系中心の側面があることも注記すべきです。

【地球圏科学専攻】

- ・入試情報がどこにあるのかわかりにくい部分があった(Web Page)。
- ・学院説明時に学院の施設、研究室もついでに案内していただけたらいいと思います。
- ・授業のシラバスがWeb で公開されているところ。実際に学んでいる学生の声を知ることができないのは残念。
- ・入試過去問を公開しているのが良い。
- ・環境科学院の存在も、HP でもっとアピールできるとよいと思いました(知ることができたのが遅かったため)。日本の大学にポスターを配るなども知るよいきっかけになると思いました。

【生物圏科学専攻】

- ・インターネットで検索するとすぐに見つかる(上の方に出てくる)ことや、ホームページの内容がわかりやすいことが優れている点だと思う。
- ・可能な限りもっと大々的にアピールをするべきだと思う。(志願者が少ないため)例えば、水産学部のキャンパス(函館)でも説明会を開けたら良いと思う。
- ・環境科学院の組織図を簡略化して提示してもらいたい。
- ・パンフレットは各専攻提出の寄せ集めといった印象が強く、学院を見たこともない人にとっては複雑怪奇で有ると思う。全体として統一感の取れたものにするために、さらなる改善の余地があると思う。一方で、HP に関しては最近リニューアルされ、更新の機会も増えていることは利用者側にとって好印象である。HP で学院の情報を集める人が大多数だと思われるので、さらに細かい部分まで改善を進めてほしい。
- ・ホームページで、「いま、地球環境が…」と書かれている部分、設立と特色の詳細→というところ

は、クリックしても反応しない。別のページから内容はわかるものの、学院に対するイメージは下がると思う。

- ・環境起学の研究内容はわかりにくかったように思う。
- ・開示可能な情報は入学志願者に対しては十分であるが、本学院を知らない者にとっては少々学内の構図が複雑である。その為、他学校のみならず本学内にいる学生ですら正確に本学院の構図的な意味での位置がはっきりとしていない。在学中に構図が変更したとしても、それを知る術が少ないと感じうけられる。
- ・もう少しPR した方がよいのではないかと思います。
- ・願書にコースの第一希望と第二希望を書く欄があったが、第二希望欄への記入が必須なのか否かが非常に分かりづらかった。
- ・学院を出た後にどのような進路があるのかについての情報提供を明確にし、学院で研究できる内容を説明する前に学院の在り方が研究者養成を目指すことであるならそうと示してほしい。研究者になる強い意志を持っている、もしくはその後の進路は割り切ってでも研究に強い関心を持っている人のみが、事実上学院から恩恵を得ることができる人種であると説明すべき。
- ・教官の所属と学生の所属が異なっているなど、制度が複雑なように感じました。
- ・優れていると思う点は、広く学生を募集していると感じますし、学生を受け入れる環境をよくしようと努力しているとも感じる。改善すべき点は、優れている点で述べたことを大学職員全体で意識を一つにしていなと感じる。例えば、説明会にある専攻の教官が一人も参加しておらず、説明が省略されていた点である。

【環境物質科学専攻】

- ・自分では行けなかったが、他都市での説明会の開催はとてもいいと思う。
- ・学院に対する認知度が他研究科と比べまだ高くない。セミナーや出前授業を行って、認知度の向上を図ることは重要である。
- ・研究室の場所(うちの研究室が環境科学院ではないところにあるということを知ることができなかった)。
- ・HP に書かれている研究内容が、現在行われているものと異なっている場合がある。すなわち情報が古い。
- ・全体的に研究室のHP をもっとよくした方が良い。
- ・もっと北大内の入学志願者に対して情報提供する必要があると思う。

【専攻不明】

- ・現在のもので十分と思う。

27.指導教員の選択方法

【環境起学専攻】

- ・実質早いもの勝ちの感があります。教員決定後のカウンセリングがあつていいと思います。
- ・7月まで決めなくていい、ということでみんな7月まで遊んでしまっている。危機感を持たせるた

めにもなるべく早い方がいいでしょう。

- ・周りをみていると、先生との性格の不一致で研究室を変える人が思ったよりも多いので、研究室を決める前にもっと交流をもったり、先生も繕わないで普段の研究室の様子(やいつもの先生の様子)を見せるべきだと思う。
- ・自分次第ですが、各研究室のゼミに参加して、もっとその研究室の雰囲気、教員の指導方法について、ある程度、把握してから決めるべきだったと思っています。
- ・指導教員の選択方法について、ほとんどの教員は受入人数を制限していて、希望していても希望の教員につけない生徒もいたらしいので、入試の時点で教員ごとの受入可能人数を明示しておいた方がいいのではないかと思う。初めから受け入れ人数が少ない先生のところを希望する人は、希望が通らなかったとしても予めそのような可能性も想像できるので今よりは納得できると思う。
- ・統合コースM1 時の指導教員決定について、就職活動の開始と前期の学生生活が暇になること(必修ではなく、必要単位数も少ないため)から、もっと研究室配属は早めるべきだと思います。現在のカリキュラムでは7月決定の意味がよく理解できません。(学生は研究室選択の時間が確保できるが為になるとは思わない)。希望者や他の活動に精を出す人のみ予約制にして基本の配属は4月、5月ぐらいからが良いと思います。

39.ハラスメントへの取り組みに対する評価(相談窓口の設置など)

【生物圏科学専攻】

- ・受けたことがないので分からない。

40.研究・教育環境への要望や評価

【環境起学専攻】

- ・学院で、何を目指すのかがあまりはっきりしません。起学専攻という専攻自体が微妙な領域を扱うのですから、ある程度混乱が生じてしまうことは仕方ないと思います。しかし、「環境」という語が示す範囲が地球レベルなのか、地域レベルなのか、この学院でいうところの環境科学とは何で、起こそうとしている学とは何なのかをはっきりさせる努力を(学生も教員も関係なく)することが必要であると思います。学生、教員相互にそういう意味での交流が図れる仕組みを作ることで、起学専攻という専攻が出来上がっていくのではないかなと思います。
- ・セミナーと授業が被るのはあまりよくないと思います(仕方ないかもしれませんが…)
- ・指導教員、修士論文の研究テーマが決まってから、課題セミナーを決めるようにした方が良いと思う。
- ・教員間の軋轢が部分的に強くあらわれており、学生にも影響しているように思われる。学生の研究環境を良好にするために、これから入学する学生のことを思うと緩和の余地があるのではないかと考えられる。
- ・授業に関して、専門的な知識は本でも勉強できるので、英語力、プレゼン力や文章力の育成に

力を入れて欲しい(添削指導など)です。外から講師を招く集中講義やA先生の実習は普段はなかなか体験できないもので貴重でした。環境起学(特に統合コース)に関して、やはり研究中心で専門的になってしまうことから、漠然と環境を幅広く学ぼうと思う学生にとっては、想像とのギャップを感じる面があるかもしれません(環境は幅広い分野を持ち教育は確かに難しいのですが)。

- 中間発表は1回でいいと思います。
- 先生の研究に対する姿勢は、自分が研究する際の手本になっていて、刺激されていい。
- 統合コースの修論テーマについて、教授の意見が一致していない気がする。
- 起学専攻に関してなのですが、学生の居部屋がバラバラで離れているのはよくないと思う。自分の居部屋にいても、研究室の先輩などと顔を合わせることもなく、コミュニケーションをとる機会が少なくなっているのはあまりよくないのではないかと思います。反対に他の研究室の人と仲良くなれるのはいいですが、全体としては負の効果のほうが大きいのではないかと感じています。同じ研究室の人で部屋を固めてしまった方がいいと思います。

【地球圏科学専攻】

- 要望ではないが、起学専攻の位置づけがいまいちわからない。最終的に他専攻の研究室に配属される訳だが他専攻との違いが明確に理解できない。理系出身の教員だけでなく文系出身の方もいればよいと思う。
- 現状のままでよいかと思います。
- もっと早くから修士研究に取り組みたい。学内の他の大学理ともっと連携してほしい。
- 大気・海洋コースは研究を進められる時期が遅いため、研究が遅れてしまう。そのため、研究室配属をはやくしてほしかった。
- 折角多くの分野が集まっているのに、全体で社会に研究成果を還元できるような機会がないように感じます。個々の分野では活動があっても、これでは環境科学院として多くの分野が集まっている意味がない気がします。

【生物圏科学専攻】

- 講義に関する情報提供が少なすぎる。掲示板だけでなくWebにも詳細な情報を載せて欲しい。特に集中講義の日程が決まる時期が遅すぎて困る。掲示板も時期の過ぎた不必要な紙が多くて見づらい。
- 様々な分野の研究が集まっているので、一つ一つの施設はあまり充実していませんでしたが、入ってみると様々な分野があるからこそ様々な機器があり、とても利用しやすい。それぞれを専門に扱っている人に聞くととても丁寧に教えてくれる。様々な分野がある分、自分の専門に該当する授業が他の学部比べて少なく感じるが、現在は他学部の授業を受けることができるのでそれで満足している。
- 札幌から離れた遠隔地の実験施設で研究を行っていく場合、専攻と異なる他分野の学部出身者にとってはその専攻で必要とされる専門知識を得る機会が少ないと思う。
- 個人がそれぞれ好きな研究をできることは長所であるが、体系だてて(チーム?)ほり下げて

いくことができにくい。大学・研究室として成長するには個人プレーだけでない体制も必要ではないかと思う。

- ・人数と研究室の大きさが一致していない点と、部屋の割り振りがバラバラ(同じ研究室の部屋でもA棟にあったり、C棟にあったりする)点を改善していただきたい。
- ・厚岸にて調査を行っていますが、厚岸臨海実験所でのインターネット環境が不十分なため、調査・研究を行うのに支障がある。
- ・環境科学院は国内の環境分野において最先端の研究を行っていた旧地環研の流れを汲んでいるのでもう少し過去に負けないような研究やPR等をしてさらに優秀な発表を行っていく必要があるのではないかと感じた。そのため、やはり研究院の知名度の向上と入学者の厳選が必要になってくるのではないかと思う。また、最近ホームページが更新されたのだが更なるマスメディアの更新も図る必要がある。そして、事務手続きなどの対応の早さも必要だと思う。自分は遠隔地なのですがやはり伝達手段が乏しく、知ってからでは遅すぎるということも多々あった。そのため、履修登録をするにしてもシラバスだけではなく前期にこの教科とこの教科を履修しなければ卒業できないなどといった説明についても遠隔地ならばなおさら事細かに説明してほしい。最後にやはり、本当に素晴らしい研究者や施設があるのでそれをうまく生かし、これからも国内の環境分野を牽引するような活躍、充実を期待します。
- ・このようなアンケートを行い、環境改善に努めているということが、在学生にとって非常に励みになる。また学術助成の窓口2名の女性の方達はいつも非常に丁寧に対応してくださり、好印象を持てる。Web上で掲示板情報を確認出来ることはとても便利。ただ、他専攻の情報を必要とすることもあるので、出来れば学生向け情報のトップページは同じにして、そこから枝分かれ出来る様にして欲しい。学生室の電話線にも外線から電話が入る様にして欲しい。学会登録などで必要な場合もあるし、そのことが何か悪い作用を持つとは考えにくい。一般に他の研究院では外線が入るのではないか。
- ・10番の質問では単位でその量を問うておりますが、研究に間接的にしても役立つ講義の単位数は卒業に必要な現在の単位数を下回ると思います。大学院で今更専門外の教養を増やしたところで直接的な役には立たず、専門外の講義は受けたとすれば研究時間を奪うことになりません。大学院としての規定がどのようになっているかは存じませんが、費やすべきであり、また実際に費やしている時間を考えても特別研究(研究室で普段行っている研究)の卒業に必要な単位に占める割合をもっと増やすべきです。また学位は単位で取るものではなく、日頃の研究成果の評価によって得る物です。研究者を目指す者(大学院生)に必要なことと単位のシステムの調和をもっと図るべきです。研究環境としては共通機器で利用できるものが多くて良い。また個々人の問題でもあるが、教員(研究室)同士の仲が比較的良好、互いに研究内容での協力を仰げるのが助かる。指導教員まで事務処理を必要とする内容が廻ってくるのが指導教員の時間を奪い、結果的に研究室全体の研究の妨げとなっている。研究者としての貴重な時間と体力が事務処理に浪費されるのであれば、いずれ指導教官をはじめ、優れた研究が行えなくなり学院の研究者を養成する主旨にも反することになる。学院および大学内部での

研究室側で必要な書類の提出、手続きに関しては事務が全面的に支援するか、研究室か少なくともコースで事務の方を1人つけていただきたいです。もしくは秘書を雇う際に補助金を出すことを検討していただきたく思います。

- 指導教官が研究室に居る時間があまりにも短すぎる気がする。研究に関して不明な点があっても質問がしにくい。
- 学生が研究で自己負担しなきゃいけない費用が人によっては結構高い。
- 最低限のGIS 環境の整備とGIS 指導が可能な教員がつくことを望みます。
- 研究する場所としては、最適な環境をいただいていると思う。
- 研究設備が散在していて、不便なことがある。一つの研究グループが使用する実験室が建物のあちこちにあって、非効率的だと思う。難しいとは思うが、実験室の再配置ができるの良いのではないか。
- 居室や実験室の確保が十分に行われていない。すべての研究室に平等には無理だと思うけれども、あまりにも格差がありすぎると思うので改善してほしいです。

【環境物質科学専攻】

- 触媒科学研究センターに研究室があるため、環境科学院の掲示板を見られないので、当日教室に行ってみて休講だったことがある。その他の情報にも限度がある。
- 理科の教員免許を取れると聞いていたが、実際は無理。環境科学院で、教員免許を取れる授業を開講して欲しい。
- 実験室がかなりせまいので、あまり使われていないゼミ室などを割りあててほしい。
- 生徒のいない研究室や研究費のない所はなくていった方がいいと思います。
- 研究機器一覧表(北大内にある)を作成して欲しい。奨学金、奨励金などの説明会の充実。
- 環境起学などでは英語で行う講義がいくつかあるが、環境物質科学にはまったくないので今後開講してほしい。特に環境起学で行われていた国際コミュニケーション論などのような実践的な講義は、自分のみで学習するには限界があるので、このような講義がいくつかあったらなと思った。
- 自分は環境物質科学専攻で、来年から博士後期課程に進学します。ここで、博士課程で得る博士号を選べるようにして欲しいというのがあります。現在実際に行っている研究は環境科学というより完全に理学によっていると感じています。自分の専門と獲得する博士号にずれがあるのはこの先不便ではないかと思います。難しいかと思いますが検討してください。
- 整備が整っておりよい。
- 新年度から環境科学院入試制度が変更になり合格しやすくなるのは、在籍している院生に失礼ではないか。

【専攻不明】

- 大学院共通講義の集中講義と専攻の集中講義が同時期に開講されていたことがあったのでそれがない方がよい。

41.最近困っていること、学生支援への期待

【環境起学専攻】

- ・もっと他研究科などとのコネクションを強くしてほしいです。カウンセリングもそういう視点がほしいです。
- ・環境科学院独自での就職セミナーや就職に役立つ活動などをしていただけると安心できると思う。また学内に独自の就職相談窓口があると心強いと思う。
- ・就職活動関連の掲示板をもっと目につく場所に設置してほしい。
- ・研究機器の導入、実験方法に関する専門的教育、生物系の人材・教育の増加を期待してます。
- ・最近ではなく、ここに入学してからずっと思っていることなのですが、食事が不便。学生食堂が遠いです。自動販売機が少ない。もっと増やしてもいいのではないかと思います。水道の水が飲めないのは不便。

【地球圏科学専攻】

- ・就職に関する情報があまりなく、不安を感じている。学院として進路先に関してもう少し支援してほしい。
- ・指導教官が放任な人が多かったので、もっと指導してほしい。
- ・図書室の新聞が入るのが遅い。

【生物圏科学専攻】

- ・苫小牧に所属しているのですが、講義が札幌でしかない為、単位を取得するのが大変です。札幌以外の学生も容易に講義を受けられるシステムにして欲しいです。
- ・来年の1月末に韓国でのシンポジウムに出席できるチャンスがあります。しかし、今の自分の研究ではまだまだ試作段階なので行くことは出来ないと思い、とても残念です。このような機会をもっと増やし、指導教官が出入りする学会以外でも発表の場を広げていただけるととても良い経験になりますし、視野が広がり、他の研究者と知り合う機会になると思います。
- ・学院としては就職のサポートを行っているかどうかを知りたい。
- ・実験の合間のちょっとした時間で食事(特に夜)や買い物ができるように、研究棟内に購買を作ってほしいです。
- ・函館キャンパスとの連携をもっとしてほしい。また、本学で開講される講義で興味のある講義があっても、調査やキャンパスの違いで受講できないのは不満を感じる。そのため、集中講義等で講義をしていただければ解消すると思われます。
- ・フィールドワークで船を何度も使うので、学割証明書の10枚制限をどうにかしてほしい。自費で負担しているところも多いので、学割がないと厳しい。環境科学院所属であるが、FSC に入るので、掲示板を見に行く機会が少ない。できれば低温研やFSC など、地理的に離れている地域にも掲示板を置いてほしい。
- ・食べ物が建物内で買えるようになれば良いと思う。学食もなく、生協の販売も昼のみなので、何か口にしたい時には、外にでなければならぬ。実験などで時間的に余裕がないときには、上記

のような設備があれば便利なのと思う。

・冬の夜間や休日は、スチームが入らないのがきついです。特に年末年始はフィールド調査もなく、多くの学生が研究室に四六時中滞在し、コンピューターに向っているため、電気の使用量が多くなります。この時にスチームが使えないと電気ストーブを使う頻度が高くなり、電気の過剰使用によってブレーカーが落ちてしまうこともたびたびあります。デスクトップ使用者はブレーカーが落ちるとデータが消えてしまうので困ります。ガスストーブの栓を増やしたり、電気の使用許容量を増やすなどの対策が必要だと思います。

・あまりに突発かつトップダウン的な組織の改革・改編は現場、特に学生の研究環境に悪影響を及ぼすという視点を忘れないで欲しい。改編を行うと一見組織がきれいになった様に見えるが、そのために在学中に何度も引っ越しをしなくてはならない学生がいることも事実で、その時間や労力を他の所に使いたい。

・このアンケートも十分に生かされなければ研究時間を奪っただけですので無駄にならないことを祈ります。

・講義や特別セミナーなどの連絡方法を統一してほしい。掲示板だけであったりメールだけであったりするときがあるので、できればすべてメールにしてほしいです。

【環境物質科学専攻】

・就活情報をできるだけ多く掲示してほしい。

・学部を卒業して、テーマがかかわっているので、就職が不安定になりそうです。今いる研究室はきちっとした研究の指導をしてくれますが、以前いた研究室は、ほとんど指導してくれませんでした。基本的に、研究室によって、教育体制が違いすぎます。まったく指導してくれない教官や生徒のいない研究室など…。

・先輩が恐いです。

平成19年度 在籍学生に対するアンケート調査項目

【修士課程在籍学生】

○の付いた項目は、環境起学専攻以外の学生が回答

●の付いた項目は、環境起学専攻の学生のみが回答

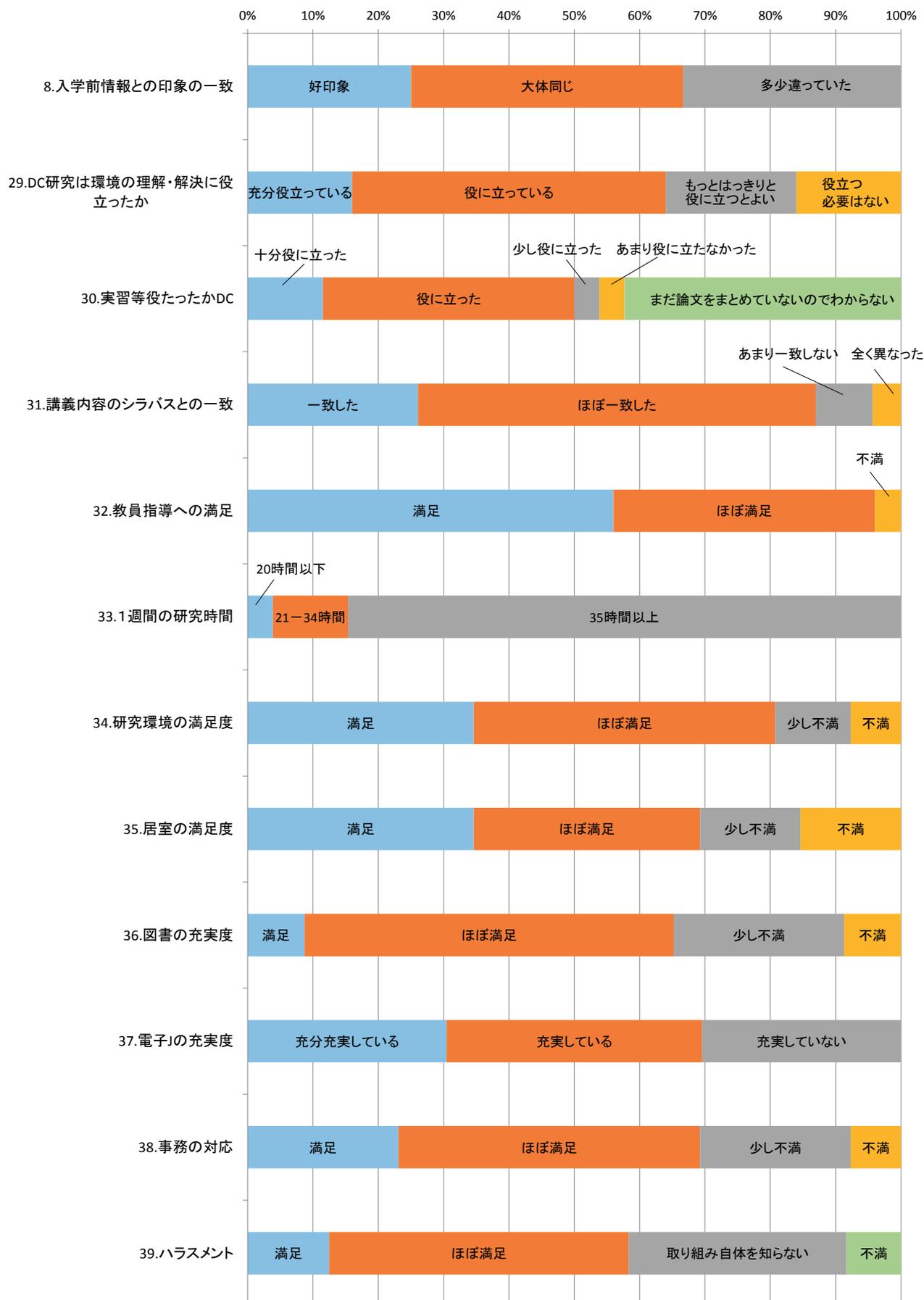
1. あなたの専門は次のうちどれに該当しますか？
 - a. 地学系 b. 物理系 c. 化学系 d. 生物系
2. あなたの学年と専攻を教えてください(2007 年11 月1 日現在)
学年: a. 修士1 年 b. 修士2 年
○専攻: b. 地球圏科学 c. 生物圏科学 d. 環境物質科学
●専攻:a1. 環境起学先駆コース a2. 環境起学統合コース
3. あなたは本学院の存在をどのような方法で知りましたか？
 - a. 学院パンフレット b. Web Page c. 出身大学の教員・先輩 d. 学会活動
 - e. マスメディア f. オープンキャンパス・施設公開 g. その他()
4. あなたは学院説明会に参加されましたか？参加された方は、説明会の開催地も選択してください
a. 参加した(a1. 東京 a2. 大阪 a3. 札幌) b. 参加していない
5. 学院説明会は進路の決定に役立ちましたか？
 - a. 非常に役立った b. 役立った c. どちらとも言えない d. あまり役立たなかった
 - e. 全く役立たなかった
6. あなたは入学願書を出す前に、志望予定の研究室を訪問しましたか？
 - a. 訪問した b. 訪問していない
7. 研究室を訪問した時期は入学試験前のいつごろでしたか？
 - a. 1 年前 b. 半年前 c. 4 ヶ月前 d. 3 ヶ月前 e. 2 ヶ月前 f. 1 ヶ月前
 - g. その他()
8. 入学志願者に学院から提供される情報(学院パンフレット、Web Page、教員の話など)と実際に入ってみての印象はどうでしたか？
 - a. 好印象 b. 大体同じ c. 多少違っていた
9. 学院の入学志願者に対する情報提供について、優れている点、改善すべき点があればお書きください
10. 学位取得のために必要な単位数は多いと思いますか？
 - a. 適当 b. 多すぎる c. 少なすぎる d. なんとも言えない
11. あなたが受講した講義のレベルはどのように評価できますか？
 - a. 高い b. 適当 c. 低い d. バラツキがある

12. 本学院教員による講義の形式は以下のどれが適当と思われますか？
a. 半期 b. クォーター制 c. 集中講義形式 d. 半期と集中講義形式 e. その他 ()
13. 外部の非常勤講師による集中講義の時期は適当ですか？
a. 適当 b. なんとも言えない c. 不適当
14. 修士課程入学直後に開講されている地球環境科学総論は役に立ちましたか？
a. 地球環境を知るのに役立った b. 内容が難しすぎて役に立たなかった
c. 内容が易しすぎて役に立たなかった d. 受講しなかった
15. 地球環境科学総論、地球温暖化総論、環境設計学総論などの共通講義は
a. もっと開講してほしい b. 今くらいでちょうど良い c. 少なくとも良い d. わからない
16. 所属している専攻で開講している基礎論は役に立ちましたか？
a. 役立った b. 内容が難しすぎて役に立たなかった c. 内容が易しすぎて役に立たなかった
d. 受講しなかった
17. 他専攻で開講している基礎論は役に立ちましたか？
a. 役立った b. 内容が難しすぎて役に立たなかった c. 内容が易しすぎて役に立たなかった
d. 受講しなかった
18. 基礎論以外の他専攻の講義を受講しましたか？
a. 2つ以上受講した b. 1つ受講した c. 受講しなかった
19. 他学院または研究科、あるいは大学院共通講義(15 に記載の講義を除く)を受講しましたか？
a. 2つ以上受講した b. 1つ受講した c. 受講しなかった
20. 修士論文の研究テーマについて
a. 充分専門的な内容を研究できる b. 関連する周辺分野の内容も研究できる
c. もっと地球環境を広く研究したい d. 自分の興味とは多少異なる
21. 修士論文の研究テーマを決定する時期と方法についてどう思われますか？
a. 満足 b. ほぼ満足 c. 少し不満 d. 不満
22. 実習、演習、フィールド調査は修士論文をまとめる際に役立ちましたか？
a. 十分役に立った b. 役に立った c. 少し役に立った d. あまり役に立たなかった
e. まだ論文をまとめていないのでわからない
- 23. 入学前に、学院のパンフレットやホームページで、先駆コース・統合コースの特徴は十分に把握できましたか。
a. 十分に把握できた b. 概ね把握できた c. 不十分だった
- 24. 入学後、先駆コース・統合コースの特徴にそった教育・研究が行われていると思いますか？
a. 十分行われている b. 概ね行われている c. 不十分である

- 25. 環境起学専攻では、主指導教員とともに、副指導教員をおく複数教員指導体制をとっていますが、このことについてどう思いますか？
 - a. 主・副の指導教員がいるのがよい b. 主指導教員だけでよい c. どちらとも言えない
 - 26. 指導教員選択の時期は現在7月ですが、適切だと思いますか。
 - a. 早すぎる(10月過ぎが良い) b. やや早い(9月ごろが良い) c. 適切
 - d. やや遅すぎる(5月ごろが良い) e. 遅すぎる(入学直後が良い)
 - 27. 指導教員の選択方法についてご意見がありましたら、お書きください。
 - 28. 環境起学専攻では、専攻セミナーや課題セミナーなどを開催していますが、このことについてどう思いますか？(複数回答可)
 - a. いろいろなセミナーがあつて有意義である b. 回数が多すぎて負担が多いと感じている
 - c. もっと内容を充実して欲しい
- (29. 30.は省略)
- 31. シラバスの内容は実際の講義の内容と一致していましたか？
 - a. 一致した b. ほぼ一致した c. あまり一致しない d. 全く異なった
 - 32. 教員の研究指導には満足していますか？
 - a. 満足 b. ほぼ満足 c. 少し不満 d. 不満
 - 33. 一週間のうちに修士論文の研究を行う時間はどのくらいですか？
 - a. 20時間以下 b. 21-34時間 c. 35時間以上
 - 34. 現在の研究環境(実験設備、コンピュータの使用、フィールド調査、安全対策など)について満足していますか？
 - a. 満足 b. ほぼ満足 c. 少し不満 d. 不満
 - 35. あなたの居室の環境はどう思われますか？
 - a. 満足 b. ほぼ満足 c. 少し不満 d. 不満
 - 36. コース、専攻および学院図書室の図書・雑誌の充実度には
 - a. 満足 b. ほぼ満足 c. 少し不満 d. 不満
 - 37. 本学の電子ジャーナルは充実していますか？cの場合には該当項目にもチェックしてください
 - a. 充分充実している b. 充実している c. 充実していない(c1.追加のジャーナルを希望
 - c2. 古い年のジャーナルを閲覧したい c3.その他()
 - 38. 事務手続きに関する連絡方法と、対応のやさしいかがですか？
 - a. 満足 b. ほぼ満足 c. 少し不満 d. 不満
 - 39. 相談窓口の設置など、ハラスメントについての本学院の取り組みをどのように評価されますか？
 - a. 満足 b. ほぼ満足 c. 取り組み自体を知らない d. 少し不満
 - e. 不満(要望があればお書きください)

40. 研究・教育環境などに関して学院に対する要望や評価する点があればお書きください
41. 最近困っていることはありませんか？また、専攻／学院として行う学生支援としてどのようなことを期待していますか？何かあれば、ご自由にお書きください

資料41-4 平成19年度 在学学生に対するアンケート調査結果 博士



平成19年度在籍学生に対するアンケート調査結果(自由回答)

博士課程

9. 入学志願者に対する情報提供

各項目前の数字は、アンケートの調査項目番号を示しています。(「6. 調査項目」の「6-2. 博士課程在籍学生」参照)

【環境起学専攻】

・受験日や応募内容、期限などがもっと早くわかった方が良いと思う。過去問の提供は、非常に役立った。

【地球圏科学専攻】

・ホームページをもっと洗練かつ充実したものにするとよいと思います。学生が過去にどのような研究をしてきたか、どのような研究ができるのかという情報をもっと具体的に提供した方が、学生の興味をそそると考えます。

・博士課程の学生は外国と同じように、給料を出して雇うべき。そうしないと、学費や生活費の問題で、博士課程を諦める人が今後増加するのは間違いないと思う。あと、博士号取得者の就職先を考えているという取り組みこそが今後の入学者増加には必須。

【生物圏科学専攻】

・HP上でももう少し具体的に且つ明るい研究内容等の紹介をした方がよいと思います。優秀な学生を獲得するために必要だと思います。

・”学院の“というよりも研究室を焦点にして進学するケースが多いと思うので、各研究室がHPとか宣伝を充実させる。”学院“は全体でいろいろやらなくても研究室の宣伝をサポートすれば充分。

・優れている点:教員、学生の方々から直接お話しを伺う機会が多く親切だった。改善すべき点:入学前に精通しておくべき事柄(学外からは得られにくい教科書、論文、解析ソフト)などの情報の提供、調査費用の自己負担分についての情報提供。

【環境物質科学専攻】

・優れた点はない。情報が少ない、北大内での環境科学院の印象が地味な気がする。

【専攻不明】

・web page は充実していると思われる。

・外から入学する学生に対して、札幌だけでなく東京・大阪についても実際に教員が来て説明してくれるのは非常に有益であったと思う。私もこの説明会が東京でなければ参加は難しかった。改善すべき点としては説明会・研究室訪問の際に先輩学生とのコミュニケーションをより多く取ることが出来ればと思う。私は研究室訪問の際、運良く休憩中の学生と話すことができたが、制度として出来上がっているわけではないため、その点が向上できればと思う。

39.ハラスメントへの取り組みの評価(相談窓口の設置など)

【地球圏科学専攻】

・貼り紙をするだけで、具体的にどうすればよいかわからない。というか、教員同士で誰が学生に対し越権行為を行っているか分かりそうなものだが、正直、学生側から相談に行くのは難しいと思う。問題になる前に教員の中で解決して欲しい。(あるならば)もしくは教員から学生に働きかけるなど。

【生物圏科学専攻】

・相談窓口の設置など、ハラスメントについて積極的に取り組んでおられることはよいことだと思います。ただ、以前本学院で開催されたFD(フォカリティディベロップメント)研修会は非常に残念でした。おそらく私は数少ない(?)参加者の一人だったと思うのですが、多くの学生に参加してほしいとしながらも、私が実際にその開催を知ったのは前日でしたし、学生への「宣伝」があまりうまくいってなかったのではないのでしょうか?研修会の後、山積みになった資料が残っていたことについては、悲しい気持ちになりました。もう一点は研修会の内容そのものが、決してアカハラ、セクハラを受けた学生のケアに重点が置かれていなかったことです。私の印象では、いかに教員を守っていくかということに重点があったように感じました。もちろん教員(先生方)も一人の人間であり、全面的に悪いわけではありませんし、大学を大学として機能させていくためには教員の立場を守ること必要なのでしょう。けれども多くの場合、学生は弱い立場にあり、ハラスメントの解決の仕方次第では、PTSD(心的外傷後ストレス障害)をはじめとする心身のやまいが、将来にわたって続くこととなります。先生方、研究者あつての大学ですが、学生あつての大学でもあります。もう少しハラスメントにあつた学生をいかにケアしていくか、考えていただきたいと思います。また、ハラスメントという言葉が先走りし、当事者同士の誤解などで問題となってしまうことは多々あります。ですから研修会の内容についても、どちらかの立場に重点を置くのではなく、どうしてそのような問題が起こってしまったのかについて、どのようなことに留意するとよいかなど、そういうことを大学人全体が考えていける場としての「研修会」を望みます。

【専攻不明】

・実際には無理かもしれないが、場所(部屋)等があるともっと利用しやすいと思う。

40.研究・教育環境への要望や評価

【環境起学専攻】

- ・先生が、研究や指導に当たられる時間や予算がもっとあれば、指導をもっと気軽に受けられると思う。
- ・現在私は環境起学専攻に所属しているが、他の専攻との温度差が大きいような気がする。起学専攻では、毎年1回ポスター発表を実施し、他分野の先生からもアドバイスを受けることができる。他の専攻ではそういうことがほとんどなく、修論の発表だけで他に発表の機会が無い学生がいることもある。本当は自発的に発表の機会を作るべきなのかもしれないが、教育の一環としてもう少し発表の機会を作ってもいいのではないかと思う。

【地球圏科学専攻】

- ・建物前の門にある環境科学院の看板が見つらく、訪問者などにはわかりづらいように感じます。
- ・特にありません。十分満足しております。
- ・起学専攻のような応用分野は基礎的研究を行った修士院生が進むべきだと思う。学部卒の知識・技術で研究を行うのには、ハードルが高い気がする。中途半端に修士2年で修了しても、人材は育たないのではないのか？
- ・本学独自の経済的援助の充実をお願いします。

【生物圏科学専攻】

- ・私は、研究室が函館にあるため札幌の校舎に行く機会がほとんどありません。しかし、調査フィールドが道東であるため、札幌に立ち寄る機会は多々あります。そこで、私のような学生が臨時に使える部屋(ネット環境も含めて)を札幌の校舎に常設して頂きたいと思います。
- ・本学院に限らないのですが、最近の大学の学部や学科、専攻、コースの枠組み変更は、院生にとってデメリットもあるようです。現在ご指導いただいている先生は、他の講座から現在のコースに入られてこられました。しかし、実際は表向きだけが枠組み変更になっていて、コースの他の先生方、学生との交流もほとんどなく、コースのゼミからその開催の案内が来ないこともありました。そもそも入学当初はコースからのガイダンスさえありませんでした。事細かに仔細を申し上げると枚挙にいとまがないので記しませんが、新たに枠組みされたコースが、あつてないようなものになっているように思えます(実際は各先生方が好き勝手にやっているところがあるのではないのでしょうか?)。同じコースの先生方や院生がどんな研究をやっているのかとか、それくらいは見えてくる繋がりのある専攻、コースにしてほしいものです。
- ・所属が臼尻実験所のため札幌と離れている。電話での対応には満足しているが、書類の提出などもろもろの手続きに関する状況は悪い。フィールド科学センター所属の学生のこともよく考慮したシステムを作してほしい。
- ・要望:他分野、他大学との連携、文系分野の指導、大学外での市民向けレクチャー

【環境物質科学専攻】

- ・教育環境としては非常に不満、大学院レベルの専門性のある授業がほぼなかったので、必要に応じて他学部の授業などを受ける必要がある。事務の仕事は以前よりよくなったと思う。

41.最近困っていること、学生支援への期待

【環境起学専攻】

- ・十分な対応を受けています。
- ・最近学生の質が落ちているような気がする。何をしに大学院に進学してきているのかがわからない人が多い気がする。自分も学生なので強くは言えないが、そう感じる。専攻の行う学生支援として期待することではないと思うが、気になることである。

【地球圏科学専攻】

- ・東京大学では、博士課程の学生の授業料を免除する制度が始まるという話を聞きました。地方大学では難しいかとは思いますが、将来的にそうなればいいなと思います。
- ・学位取得後の就職活動の支援をお願いします。

【生物圏科学専攻】

- ・調査には自身の車を利用するため(レンタカーではコストがかかる上、都合が悪い)、出張費などからガソリン代を支給できるようにして欲しいです。
- ・助成金制度の告知をもう少し早めに連絡してほしい。
- ・困っていることは…たくさんありますよ。専攻/学院として、どのような支援をしていただけると(私のような場合)よいのか、即座に思いつきません。ただ入学前後における院生の研究課題の設定やテーマの絞込みについては、先生方と院生との間で「よくもめごとになる」問題ではないでしょうか？この問題については入学前にある種の契約書のようなものをかわすなど、そういうことをしていかなければならない時代になっているかもしれません。それにしても一度や二度でなく…「実験機器のまわりを物置にして、いつまでも片付けてくれない。…分析ができない。」「院生の話を十分に聞かないで、いいかげんなコメントをする、支離滅裂で何を言っているかわからない。…研究課題を絞れない。」「重要な事務連絡をきちんと連絡してくれない。…朝、調査準備のために研究室に来ると工事をやっていて入れない。」「実験機器を何ヶ月も洗わずにほったらかし。…実験ができない。試薬類はほっといて大丈夫か？」「他人の研究にケチばかりをつけて、院生に聞かせる。」などなど、こういう指導教官に対して院生はどうすればいいですか？指導教員、コース、専攻、学院を変更しやすくしていただかないのかもしれないかもしれません。
- ・期待する支援:学生が留年するのは学生だけの問題ではないと思うので改善したほうが良いと思う。
- ・一階にスターバックスか飲食店を作る。

【環境物質科学専攻】

- ・経済面が厳しいです。受領料を全部免除し、奨学金をもらいたいです。
- ・できれば、留学生として、博士は毎年少なくとも、奨学金をもらったら、幸いと思います。病気代はもっと多い扶助金があれば、いいと思います。

平成19年度 在籍学生に対するアンケート調査項目

【博士課程在籍学生】

1. あなたの専門は次のうちどれに該当しますか？
 - a. 地学系 b. 物理系 c. 化学系 d. 生物系
2. あなたの学年と専攻を教えてください(2007年11月1日現在)
学年:c. 博士1年 d. 博士2年 e. 博士3年
専攻:a. 環境起学 b. 地球圏科学 c. 生物圏科学 d. 環境物質科学
3. あなたは本学院の存在をどのような方法で知りましたか？
 - a. 学院パンフレット b. Web Page c. 出身大学の教員・先輩 d. 学会活動
 - e. マスメディア f. オープンキャンパス・施設公開 g. その他()
4. あなたは学院説明会に参加されましたか？参加された方は、説明会の開催地も選択してください
 - a. 参加した(a1. 東京 a2. 大阪 a3. 札幌) b. 参加していない
5. 学院説明会は進路の決定に役立ちましたか？
 - a. 非常に役立った b. 役立った c. どちらとも言えない d. あまり役立たなかった
 - e. 全く役立たなかった
6. あなたは入学願書を出す前に、志望予定の研究室を訪問しましたか？
 - a. 訪問した b. 訪問していない
7. 研究室を訪問した時期は入学試験前のいつごろでしたか？
 - a. 1年前 b. 半年前 c. 4ヶ月前 d. 3ヶ月前 e. 2ヶ月前 f. 1ヶ月前
 - g. その他()
8. 入学志願者に学院から提供される情報(学院パンフレット、Web Page、教員の話など)と実際に入ってみての印象はどうでしたか？
 - a. 好印象 b. 大体同じ c. 多少違っていた
9. 学院の入学志願者に対する情報提供について、優れている点、改善すべき点があればお書きください(10-28は省略)
29. 博士論文の研究は地球環境の理解、地球環境問題の解決のために
 - a. 充分役立っている b. 役に立っている c. もっとはっきりと役立つとよい d. 役立つ必要はない
30. 実習、演習、フィールド調査は博士論文をまとめる際に役立ちましたか？
 - a. 十分役に立った b. 役に立った c. 少し役に立った d. あまり役に立たなかった
 - e. まだ論文をまとめていないのでわからない
31. シラバスの内容は実際の講義の内容と一致していましたか？
 - a. 一致した b. ほぼ一致した c. あまり一致しない d. 全く異なった

32. 教員の研究指導には満足していますか？
a. 満足 b. ほぼ満足 c. 少し不満 d. 不満
33. 一週間のうちに博士論文の研究を行う時間はどのくらいですか？
a. 20 時間以下 b. 21–34 時間 c. 35 時間以上
34. 現在の研究環境(実験設備、コンピュータの使用、フィールド調査、安全対策など)について満足していますか？
a. 満足 b. ほぼ満足 c. 少し不満 d. 不満
35. あなたの居室の環境はどう思われますか？
a. 満足 b. ほぼ満足 c. 少し不満 d. 不満
36. コース、専攻および学院図書室の図書・雑誌の充実度には
a. 満足 b. ほぼ満足 c. 少し不満 d. 不満
37. 本学の電子ジャーナルは充実していますか？c の場合は該当項目にもチェックしてください
a. 充分充実している b. 充実している c. 充実していない(c1.追加のジャーナルを希望
c2. 古い年のジャーナルを閲覧したい c3.その他())
38. 事務手続きに関する連絡方法と、対応のやさしいかがですか？
a. 満足 b. ほぼ満足 c. 少し不満 d. 不満
39. 相談窓口の設置など、ハラスメントについての本学院の取り組みをどのように評価されますか？
a. 満足 b. ほぼ満足 c. 取り組み自体を知らない d. 少し不満
e. 不満(要望があればお書きください)
40. 研究・教育環境などに関して学院に対する要望や評価する点があればお書きください
41. 最近困っていることはありませんか？また、専攻／学院として行う学生支援としてどのようなことを期待していますか？何かあれば、ご自由にお書きください